

第41回 医学情報サービス研究大会 抄録集



日程：2026年8月1日（土）

会場：ピアザ淡海滋賀県民交流センター

第 41 回医学情報サービス研究大会の開催にあたって

—MIS41 滋賀へようこそ！—

八木澤ちひろ

実行委員長

皆様、本日は MIS41 滋賀にご参加ありがとうございます。

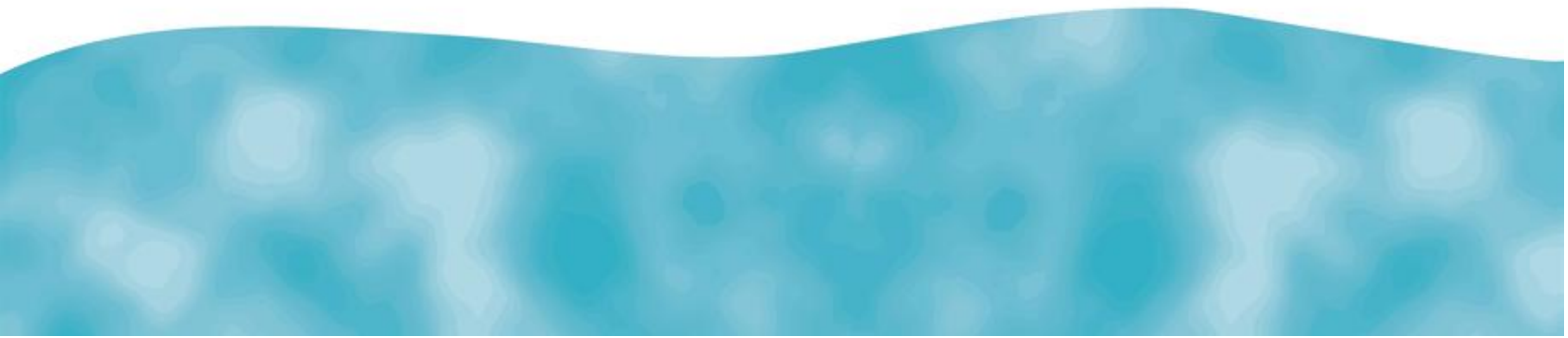
本大会の準備は、昨年 6 月の実行委員会第 1 回ミーティングから始まりました。それから 1 年以上の月日をかけ、実行委員一同、一歩ずつ準備を進めてまいりました。

MIS 初のワンデイ開催や U30 枠の新設など、試行錯誤の運営の中、新しい試みにも挑戦しています。

今回、医学情報サービスに関連する多岐にわたる分野から、多彩な演題が出そろいました。ご所属も、公共図書館や大学図書館、病院図書館の方をはじめ、患者団体や企業の方などバリエーション豊かです。専門職としての知見を深められる、いずれもたいへん興味深いテーマが集まっております。基調講演、口頭発表やポスター発表をはじめ、何よりも参加者同士の交流を通じて、日常の業務や研究に役立つ場になれば嬉しく思います。

会場のピアザ淡海は、15 年前の第 28 回（2011 年）の京滋大会と同じ会場となります。会場の目の前には、日本最大の湖である琵琶湖が広がっています。発表の合間や有志企画ご参加の際には、ぜひその美しい景色も楽しんでいただければ幸いです。

本大会の「Learning from each other!」というモットーをふまえて、所属や立場を超え、お互いに学びあえる場となることを心より願っております。皆様にとって、新しい知識を得るだけでなく、全国の仲間との交流を深め、明日からの業務や研究につながる有意義な一日にしていまいりましょう。



目次

実行委員長挨拶	1
会期中のお願い	3
会場へのアクセス	4
会場案内	5
プログラム	6
タイムテーブル	9
基調講演	
看護研究・教育を支える医学情報サービス—文献を探し・読み・活かすための協働—	10
口頭発表	
A	12
B	17
C	22
ポスターセッション	27
プロダクトエキシビション	34
参加企業連絡先	48
発表要領	
口頭発表要領	50
ポスター発表要領	51
企業展示要領	52
プロダクトレビュー発表要領	54
Learning from each other! 医学情報サービス研究大会をより充実させるために	56
実行委員紹介	62
ロゴマーク・グッズ紹介	66
有志企画	67
大会関連データ	
医学情報サービス研究大会の組織と運営	69
医学情報サービス研究会会則	71
医学情報サービス研究大会の足跡	73
大会主催のお願い	76

会期中のお願い

■基本情報

1. 名札

大会参加期間中（懇親会を含む）は、必ず名札をご着用ください。使用後の名札は記念にお持ち帰りください。

2. 名札の色分けについて

参加者のうち、実行委員は「紫」、企業参加者は「緑」、一般参加者は「青」の名札を着用しています。交流やお問い合わせの際にお役立てください。

3. 昼食について

昼食は、大会議室をご利用いただけます。ホワイエでの飲食はできません。

4. 会場の美化・ごみの処理について

会場の美化にご協力をお願いいたします。ごみは所定のゴミ箱へお捨てください。

5. 参加証明書の取得について

会場内に掲示している QR コードより取得いただけます。

6. アンケート

名札裏面の QR コードよりご回答ください。大会終了後は、公式サイトからも回答可能です。

■禁止・制限事項

1. 敷地内での喫煙は禁止です。

2. 録音・撮影・音の出る行為はご遠慮ください。

大会議室、ポスターセッション及び企業ブースでの携帯電話での通話や、機器による録音・撮影はお控えください。

■必ずご確認ください

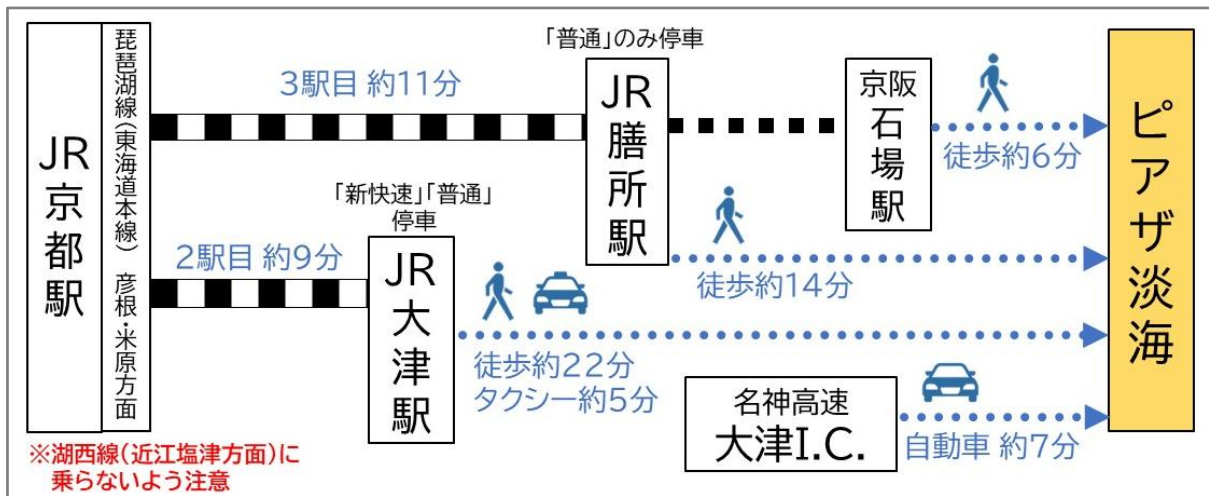
1. 貴重品はご自身で管理をお願いいたします。実行委員会では責任を負いかねます。

大きい荷物の預かりを希望の方は、受付までお申出ください。事務局控室(304 会議室)でお預かりします。

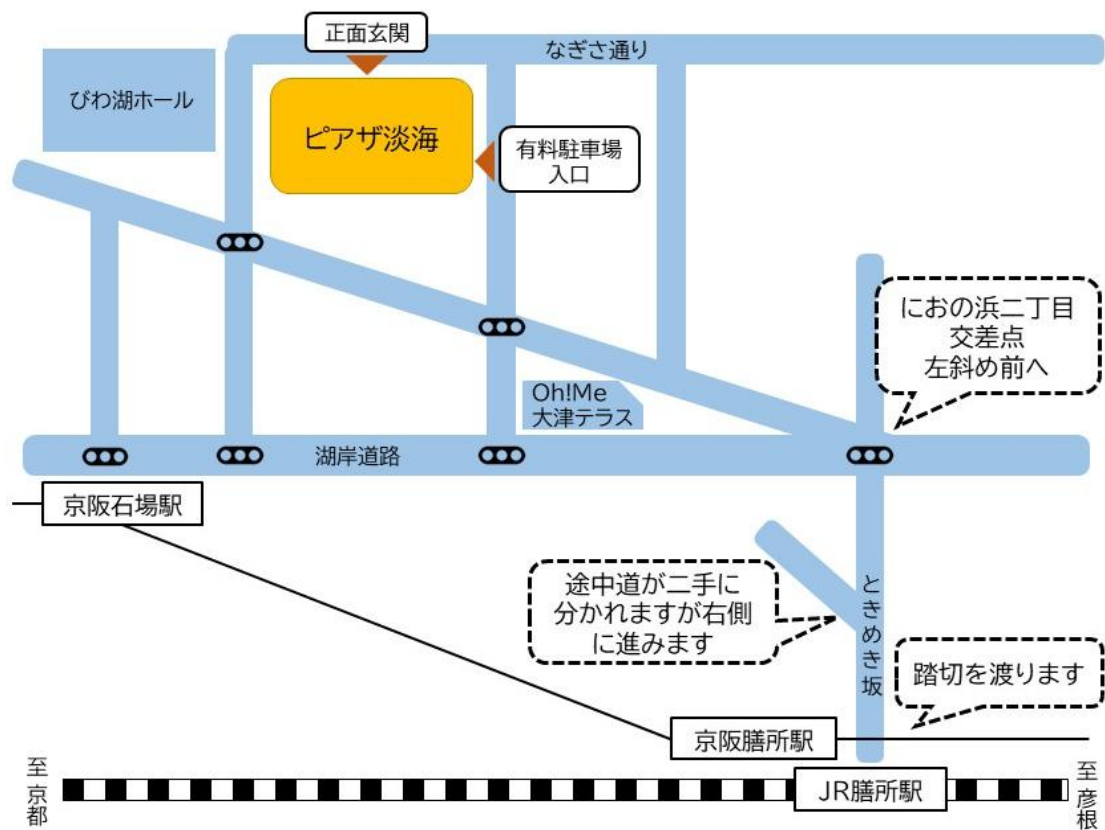
2. 非常口や避難通路は、会場内の案内表示をご確認のうえ、あらかじめご自身でご確認ください。

3. 暑さ対策として、こまめな水分補給を心がけてください。体調がすぐれない場合は、近くの実行委員にお声がけください。

会場へのアクセス



膳所駅・石場駅からの道案内



大津周辺グルメ・観光マップ

会場周辺に限らず、実行委員お薦めのお店などを紹介しています。
前後の日程の観光などにお役立てください！



会場案内

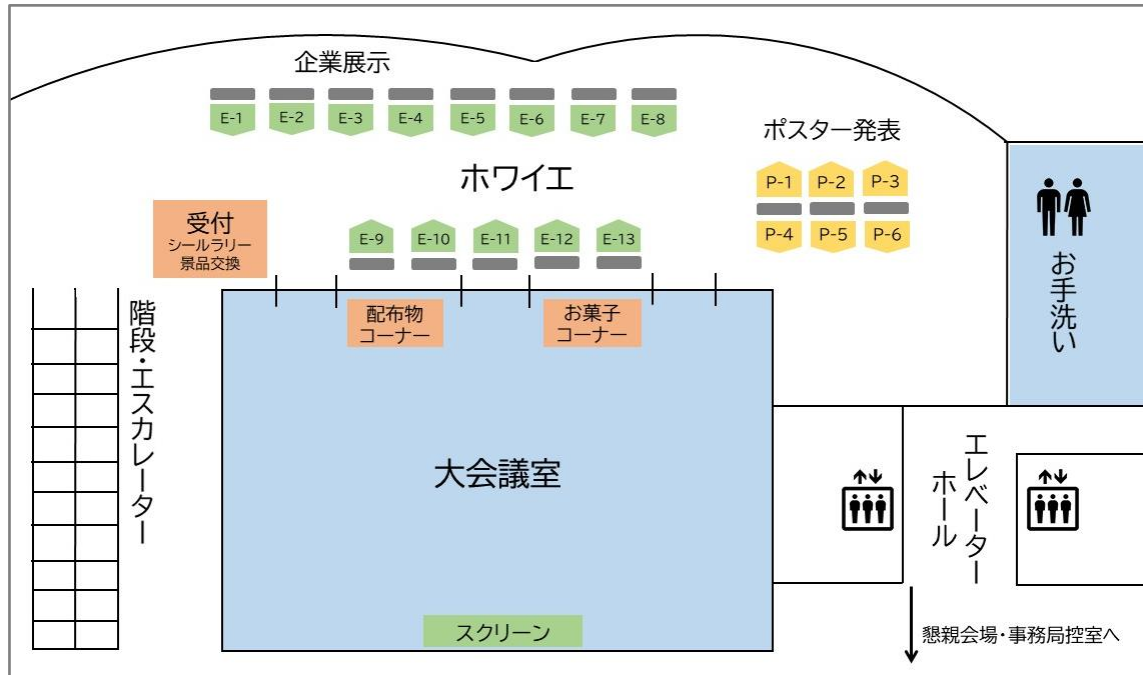
MIS41 の実施会場・懇親会場は全て 3 階にあります。

エスカレーターまたはエレベーターで 3 階へお上がりください。

1・2 階にもトイレ・休憩スペース・自販機がありますのでご利用ください。

授乳室は 1 階にあります。

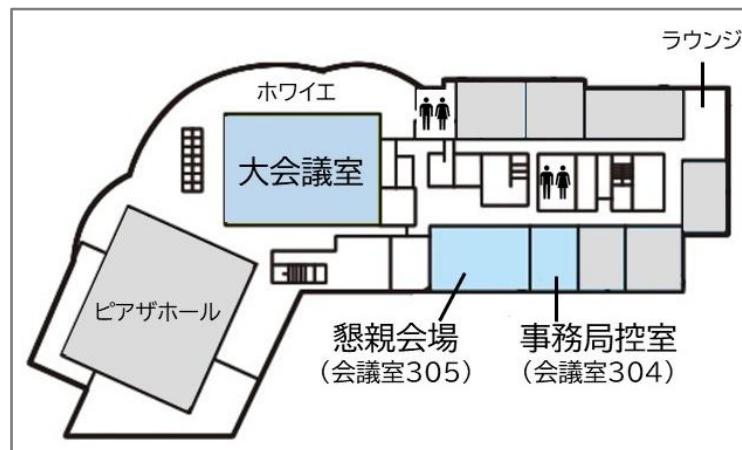
◇会場周辺図



大きい荷物の預かりを希望の方は、受付までお申出ください。事務局控室(304 会議室)でお預かりします。※貴重品は必ずご自身の手元で管理してください。

ホワイエでは飲食は禁止となっております。

◇3 階全体図



プログラム

【2026 年 8 月 1 日(土)】

09:00～09:45 受付

09:45～10:00 開会式・オリエンテーション

10:00～11:00 口頭発表セッション OA

OA-1 戦前の高等小学校の家事科教科書に掲載されていた保健衛生関係教材
菅修一

OA-2 患者団体と図書館とで連携した取り組みに関わってー広島からの報告ー
西河内靖泰（広島難病団体連絡協議会・広島女学院大学非常勤講師）

OA-3 保育者養成課程における情報活用教育の実践ービブリオバトルの導入を通してー
諏訪有香（高知学園大学高知学園短期大学図書館）、伊達諒（高知学園短期大学幼児保育学科）

OA-4 リーン・ライブラリアンー司書は病院経営にどう寄与できるか
佐藤正恵（千葉県済生会習志野病院図書室）

11:10～11:50 基調講演

看護研究・教育を支える医学情報サービスー文献を探し・読み・活かすための協働ー
内海桃絵（京都府立医科大学大学院保健看護学研究科）

12:00～12:25 プロダクトレビューRA（ランチオン）

RA-1 医学中央雑誌刊行会

RA-2 株式会社サンメディア

RA-3 ユサコ株式会社

RA-4 株式会社ブレインテック

RA-5 iJapan 株式会社

12:35～13:00 プロダクトレビューRB（ランチオン）

RB-1 EBSCO Information Services Japan 株式会社

RB-2 日本事務器株式会社

RB-3 株式会社紀伊國屋書店

RB-4 Wolters Kluwer / Ovid

RB-5 丸善雄松堂株式会社

13:10～13:40 ポスター発表・企業展示 前半

13:40～14:40 口頭発表セッション OB

OB-1 オープンアクセス支援事業の構築と今後の課題・展望

ー転換契約と独自支援制度の併用モデルー

松本ゆかり，大野理奈子（札幌医科大学）

OB-2 CiNii Books ユーザから見た CiNii Research における

CiNii Books 機能統合について

岡田智佳子（特定非営利活動法人大学図書館支援機構）

OB-3 医学生物学分野における高被引用論文のオブソレッセンス

天野晃（鹿児島大学）

OB-4 日本発の学術情報の計量的分析

ーJournal Citation Reports に掲載される医学雑誌を中心にー

城山泰彦（順天堂大学 本郷・お茶の水キャンパス学術メディアセンター）

14:50～15:20 ポスター発表・企業展示 後半

15:20～16:20 口頭発表セッション OC

OC-1 国内学協会誌の著作権に関する記述調査(生命科学分野、2026)

ー2022 年との比較ー

前田郁子（大阪大学附属図書館研究開発室）

OC-2 NLMC 翻訳から 10 年：翻訳後の変化の調査

橋本郷史（東邦大学医学メディアセンター大橋病院図書室）

OC-3 Cochrane Central Register of Controlled Trials 収載の

臨床試験レジストリーの有用性

鈴木孝明（奈良県立医科大学教育支援課（元附属図書館）），大瀬戸貴己，
大内田京菜，木下智子（奈良県立医科大学附属図書館）

OC-4 日本発システマティックレビューにおける文献検索の報告状況と質の評価

ーランダムサンプルに基づく予備的解析ー

小嶋智美（慶應義塾大学医学部 衛生学公衆衛生学教室 HTA 公的分析研究室・
Independent Librarian），眞喜志まり（慶應義塾大学医学部 衛生学公衆衛生学
教室 HTA 公的分析研究室）

16:30～17:00 閉会式・写真撮影

17:30～19:30 懇親会

ポスターセッション

P-1 天使病院小児科・NICU の抄読会で読まれた文献の集計と分類

工藤女恵（天使病院中央図書室）

P-2 森鷗外の医学情報の受容

山田栄官（東京慈恵会医科大学学術情報センター図書館）

P-3 とほにゃん発祥の地 滋賀で明かされる誕生秘話：

あるいは図書館施設におけるマスコットキャラクターの活用と展開

大谷裕（東邦大学医学メディアセンター），土肥加代子（株式会社サンメディア）

P-4 病院図書業務における業務手順共有の課題－新任者の実務経験を事例として－

高橋のぞみ（北見赤十字病院図書室）

P-5 地域に開かれた対話の場をつくる－京都府立図書館「みんなのがん教室」実践報告－

山下ユミ，島村聡明，横山知尋（京都府立図書館）

P-6 図書館東海目録サービスの活動について

小林晴子（図書館東海目録サービス）

プロダクトエキシビション

E-1 NPO 医学中央雑誌刊行会

E-2 株式会社サンメディア

E-3 ユサコ株式会社

E-4 株式会社ブレインテック

E-5 iJapan 株式会社

E-6 EBSCO Information Services Japan 株式会社

E-7 株式会社メテオ ※展示のみ

E-8 日本事務器株式会社

E-9 特定非営利活動法人 ScholAgora ※展示のみ

E-10 ワイリー・パブリッシング・ジャパン ※展示のみ

E-11 株式会社紀伊國屋書店

E-12 Wolters Kluwer / Ovid

E-13 丸善雄松堂株式会社

タイムテーブル

	大会議室	ホワイエ	305会議室
9:00		9:00-9:45 受付／ 企業展示およびポスター準備	
	9:45 開会式・オリエンテーション	ポスターセッション 企業展示	
10:00	10:00-11:00 口頭発表セッションOA		
11:00	11:10-11:50 基調講演		
12:00	12:00-12:25 プロダクトレビューRA		
	12:35-13:00 プロダクトレビューRB		
13:00		13:10-13:40 ポスター待機時間	
14:00	13:40-14:40 口頭発表セッションOB	ポスターセッション 企業展示	
		14:50-15:20 ポスター待機時間	
15:00		ポスターセッション 企業展示	
16:00	15:20-16:20 口頭発表セッションOC		
	16:30-17:00 閉会式・写真撮影		
17:00		企業展示およびポスター撤収	
18:00			17:30-19:30 懇親会

基調講演



看護研究・教育を支える医学情報サービス

－文献を探し・読み・活かすための協働－

内海桃絵

京都府立医科大学大学院保健看護学研究科

看護学における研究・教育・実践は、文献や情報を適切に活用することによって支えられている。特に近年は、研究論文や診療ガイドライン、インターネット上の医療情報、生成 AI による要約など、多様な情報に容易にアクセスできる一方で、それらを適切に検索し、評価し、活用する力の重要性が一層高まっている。しかし、情報があふれる時代であるからこそ、「どのように探すか」「何を根拠として読むか」「実践や研究にどのように活かすか」が問われている。

看護学は医学のみならず、心理学、社会学、教育学など多領域にまたがる学際の特徴を持つ。また、患者の生活や価値観、家族、地域といった文脈を重視する学問であり、扱う概念や研究方法も多様である。そのため、看護研究における文献検索では、単にキーワードを入力するだけでは十分ではなく、研究課題をどのように言語化し、適切な検索語へ変換するかが研究の質にも大きく影響する。さらに、研究論文を読む際には、研究デザインや方法論を理解し、結果を批判的に吟味する力も求められる。

一方、看護教育の現場では、学生がインターネット検索に依存しやすいことや、検索語の設定、情報の評価、引用の方法などに困難を抱えている現状がある。加えて、生成 AI の普及により、情報を容易に得られるようになった一方で、出典や根拠を確認する姿勢、複数の情報を比較しながら考える姿勢をどのように育てるかが新たな課題となっている。文献検索教育は単なる検索技術の習得ではなく、「問いを立てる力」「情報を批判的に読み解く力」「根拠をもとに考える力」を育てる教育でもある。

このような状況の中で、医学情報サービス専門職への期待はますます大きくなっている。文献検索支援やデータベース利用支援に加え、研究支援、システマティックレビュー支援、情報リテラシー教育、研究公正への支援など、その役割は広がりつつある。また、看護教員と図書館司書が協働しながら学生や研究者を支援することは、看護研究・教育の質向上にもつながると考える。

本講演では、看護研究・教育における文献検索の意義を整理するとともに、情報を「探し・読み・活かす」力をどのように育てるかについて考える。また、AI 時代における情報リテラシー教育の課題にも触れながら、看護教員と医学図書館員との協働の可能性について議論したい。

口頭発表 A



戦前の高等小学校の家事科教科書に掲載されていた 保健衛生関係教材

菅修一

発表者は以前、職場の仲間と共に戦前の国定高等小学校読本教科書に収載された保健衛生関係の教材について紹介したことがある¹⁾²⁾。今回はいずれも当時の文部省による著作である国定教科書の『高等小学理科家事教科書 第一学年児童用』(1914年),『高等小学理科家事教科書 第二学年児童用』(1915年),『高等小学家事教科書 児童用 第一学年』(1933年),『高等小学家事教科書 児童用 第二学年』(1934年),『高等小学家事教科書 児童用 第三学年』(1936年),『高等科家事 上』(1944年)に収録された保健衛生関係教材を紹介したい。当時、義務教育は尋常小学校6年間だけであった。中学校(旧制),高等女学校に進学することが家庭の経済事情等のため出来なかった場合、せめて高等小学校での学びを終えて、社会に出た子どもたちがいた。そんな子どもたちに与えられた保健衛生の知識がどのようなものだったのか知りたいと思う。なお、本稿で紹介する各教科書を学んだのは女子児童だけであったことにも留意しなければならない。

文献

- 1) 菅 修一,辰野 直子,寺升夕希,藤村 三枝. 国定の高等小学読本に採用された衛生教材(前編). 医学図書館. 2008;55(3):251-256.
- 2) 菅 修一,辰野 直子,寺升夕希,藤村 三枝. 国定の高等小学読本に採用された衛生教材(後編). 医学図書館. 2008;55(4):366-370.

患者団体と図書館とで連携した取り組みに関わって

－広島からの報告－

西河内 靖泰

広島難病団体連絡協議会／広島女学院大学非常勤講師

私は 30 年近く元・図書館員（東京都荒川区、滋賀県愛荘町・多賀町、山口県下関市）をやってきた。「健康情報棚プロジェクト」（“医療情報と日常のあいだにある「隙間の情報」を、本棚という形で編みなおす市民研究グループ”、2004 年に発足）のメンバーとして、図書館での「闘病記コーナー」の設置や健康医療情報サービスの活動に取り組んできた（私の館長時代に多賀町立図書館で「闘病記コーナー」を同プロの協力で設置した）。

2014 年 9 月に大学教員として広島の地にきた私は、滋賀で同県の難病連と RDD との関わりから、広島難病団体連絡協議会の顧問になり、2021 年からは会長となることとなった。

広難連との関わりのきっかけになった RDD とは、“世界希少・難治性疾患の日（RDD: Rare Disease Day レアディジーズデイ）”（毎年 2 月の最終日を RDD に設定）のことで、世界的な取り組みがされている。希少・難治性疾患に苦しむ人びとは世界中にいるが、世界レベルでも患者数が少なく、病気のメカニズムが複雑なため、治療薬・診断方法の研究開発がほとんど進んでいない疾患も多い。RDD は、より良い診断や治療による「希少・難治性疾患」の患者の生活の質の向上を目指して、スウェーデンで 2008 年から始まった活動である。日本でも、2010 年から 2 月最終日に近い日に様々なイベントを開催し、広島の地では、2014 年から開催している。

この取り組みに関係して、広難連は希少・難治性疾患の現状への理解を深めるために、3 年前から、広島市立図書館と広島市内の 3 つの大学図書館と連携して、難病関連図書や RDD Japan 作成の資料の展示などのコラボ企画を開催してきた。

今年の“RDD 2026 in 広島”には、広島県疾病対策課の尽力で、広島県立図書館で 2 月 3 日から 5 月 9 日まで、パネルの掲示やリーフレットの配布、関連図書館資料の展示や貸出などのコラボ企画が開催された。

例年、連携・協力いただいているのは、広島市立中央図書館、安田女子大学図書館、日本赤十字広島看護大学図書館、広島都市学園大学附属図書館（西風新都キャンパス）であるが、広島市立中央図書館については、本年度は駅前の施設に移転準備のため休館していたので、コラボ企画はできなかった（広島市立中央図書館は、2006 年 9 月に「闘病記コーナー」を設置、その後「健康・健康情報コーナー」に拡大、「患者会・家族会・各団体の情報コーナー」で、広難連の会報やチラシやパンフレットを置いてもらっている）。

本発表では、これらの図書館と連携しての取り組みについて患者会からの思いと意味を込めて、報告をさせていただきたいと思います。

保育者養成課程における情報活用教育の実践

ービブリオバトルの導入を通してー

諏訪有香¹⁾、伊達 諒²⁾

¹⁾ 高知学園大学高知学園短期大学図書館、²⁾高知学園短期大学幼児保育学科

本報告は、幼児保育学科の学生を対象に実施した図書館連携授業の実践について報告するものである。近年、保育者養成課程においては、子どもや保護者に関わる多様な情報を適切に収集・理解し、それらを他者に応じた形で伝える力の重要性が高まっている。特に絵本は、保育実践において重要な教材であると同時に、子どもの発達や興味関心に応じて選択し、その魅力や意図を適切に伝えることが求められる。本授業は、こうした資質・能力の育成を目的として実施したものであり、認定絵本土養成講座「第17講 絵本を紹介する技術①ブックトークの技術」の内容を基盤として構成した。

授業の実施にあたっては、絵本の内容理解に加え、その魅力を他者に効果的に伝えるための手法としてビブリオバトルを導入した。ビブリオバトルは、発表者が推薦図書について制限時間内に紹介し、参加者が最も読みたくなった本を投票によって選ぶ書評合戦であり、主体的な読書と情報発信を結びつける活動として注目されている。本実践では、映像教材を用いた導入により活動のイメージを共有した上で、学生自身が絵本を選定し、内容の把握、構成の検討、発表資料の整理を段階的に行った。さらに、発表当日は相互評価を取り入れ、聞き手としての視点も養うよう工夫した。

また、本授業で実施したビブリオバトルは、全国大学ビブリオバトルの予選として位置づけられ、優秀者は四国Cブロックのブロック決戦へと進出し、その後の本戦出場へとつながった。このように、学内の授業実践が学外の発表機会へと接続されたことで、学生にとっては学習活動の意義や目的がより明確になり、主体的な取組を促す要因ともなった。

授業の成果として、学生は絵本の内容を単に理解するだけでなく、発表を前提として情報を整理し、要点を抽出しながら自らの言葉で再構成する力を身につける様子が見られた。また、聞き手の反応を意識した表現の工夫や、限られた時間内で効果的に伝えるための構成力の向上も確認された。さらに、他者の発表を通じて多様な作品や視点に触れることで、読書体験の広がりや学習意欲の向上にもつながった。

本実践は、図書館が授業と連携しながら、資料提供にとどまらない教育的役割を担い得ることを示すものである。また、こうした取組は特定分野に限定されるものではなく、対人支援職を志向する学生に共通する基礎的な情報活用力および発信力の育成に寄与するものと考えられる。本発表では、授業設計の工夫および実施過程を整理するとともに、保育者養成課程における図書館の関与の意義と今後の展望について検討する。

リーン・ライブラリアン

司書は病院経営にどう寄与できるか

佐藤 正恵

千葉県済生会習志野病院図書室

1. 背景と問題意識

医療法第 22 条で地域医療支援病院には医療従事者の共同施設として図書室設置が義務付けられている。病院内の図書室司書（以下、病院司書）の配置は義務ではなく、一人部署や他部署の兼務が多い¹⁾。一方、日本の医療機関全体の経営状況は悪化しており、一般病院（国公立・民間含む）全体の約 7 割の病院が赤字経営となっている²⁾。主な理由として諸経費や人件費の高騰に対して診療報酬による収入の制限等が挙げられる。このような状況下で、病院司書は利益を消費するだけのコストセンターでなく、利益を生み出すプロフィットセンターの役割をどのように果たせるだろうか。

2. リーン・ライブラリアンとは

Huber は北米の図書館における経営コンサルタントとして「リーン・ライブラリー(Lean Library)」を提唱した³⁾。その著作はリーン型経営に基づきコストを削減しつつ利用者サービスを向上させるための 11 の戦略をまとめたものである。書評でも「図書館員にとって夢であり非常に先進的な一冊」と評価されている⁴⁾。Thomas (2015) と Chu (2018) は、米国でリーン訓練を受けた司書が経営・管理チームの一員となった事例を「リーン・ライブラリアン」として紹介している⁵⁾⁶⁾。

3. 日本におけるリーン・ライブラリアン

学術支援を行う病院司書の活動モデルとして、利用者に溶け込むエンベディッド・ライブラリアンや組織や人をつなぐリエゾン・ライブラリアン等が挙げられる⁷⁾。本発表では経営に寄与するリーン・ライブラリアンの具体的な活動として、医師の働き方改革、人材確保・育成、地域包括ケア・診療報酬の加点等について具体的な方策を検討する。

参考文献

- 1)日本病院ライブラリー協会. 現況調査報告. 2024
- 2)厚生労働省. 第 25 回 中医協医療経済実態調査（医療機関等調査）結果報告に対する見解 <https://www.mhlw.go.jp/content/10808000/001603459.pdf>
- 3)Huber, John J. Lean Library Management: Eleven Strategies for Reducing Costs and Improving Customer Services. Neal Schuman Pub; 2010.
- 4)Thomas, Susan E. Reviews. Journal of Hospital Librarianship. 12(2):185-186, 2012.
- 5)Deborah A. Thomas. The Lean Librarian. Journal of Hospital Librarianship.15(1):23-30, 2015. DOI: 10.1080/15323269.2015.982021
- 6)Alexander S. Chu, Alice Ball. Using Quality Improvement Tools to Redefine a Clinical Librarian Service. Journal of Hospital Librarianship. 18(2):133-144, 2018.
- 7)佐藤正恵. 図書館員の活動モデルを考える. 薬学図書館.62(3):144-146, 2017.

口頭発表 B



オープンアクセス支援事業の構築と今後の課題・展望

－転換契約と独自支援制度の併用モデル－

松本ゆかり、大野理奈子

札幌医科大学

1. 経緯

学術ジャーナル購読費の高騰による大学財務の圧迫と、世界的な OA 化の潮流、および国の OA ポリシー策定要請を受け、本学では研究成果の公開を戦略的に支援する体制構築が急務となった。

当初、Wiley 社との転換契約を先行導入したが、対象拡大にあたっては APC 財源の確保と学内合意形成が課題となった。学内アンケートでは、研究費からの均等負担（受益者負担）に対して専門分野による不公平感から強い反対意見が示された。これを受け、本学では一律の受益者負担を避け、研究連携推進機構の収入を財源に充当することを決定。包括的な支援事業として再設計し、2026 年 4 月より運用を開始した。

2. 事業内容：二つの柱による包括的支援

本学の「オープンアクセス支援事業」は、大きく分けて二つの柱で構成されている。

（1）転換契約による OA 支援

主要出版社との転換契約を拡充し、学内著者が追加費用負担なしで OA 出版ができる環境を整備した。これにより、研究者の APC 負担を解消するとともに、購読料と APC の「二重払い」状態を回避し、大学全体としての支出適正化を図った。

（2）APC 一部補助による OA 支援

転換契約のない出版社や転換契約内容が本学に適さない出版社への投稿の他、ゴールド OA 誌への投稿も幅広くカバーするため、ジャーナル・インパクトファクター（JIF）等一定基準を満たす論文に対し、APC の一部を大学が補助する制度を新設した。これにより、出版社や OA 種別に依存しない公平な支援体制を実現した。

3. 運用体制の構築

（1）ポータルサイトの構築

本事業の情報集約・発信拠点として、「学術論文オープンアクセス支援ポータルサイト」を構築し、申請は本サイト上からのオンライン受付とした。本サイトの周知については、デジタル・紙媒体を組み合わせ多層的に行っている。

（2）事務プロセスの最適化

本事業では、APC 支出業務を担当する部署と図書館との連携が必要となるため、申請フォームと連動した共同編集型管理簿を作成した。リアルタイムで対応状況を共有することで、事務負担の軽減と迅速な処理を可能とした。

4. 課題と展望

先行した転換契約により OA 論文比率は着実に向上しているが、運用開始を経ていくつかの課題が浮き彫りとなった。①分野特性によるグリーン OA（機関リポジトリ等）の壁、②支援基準の適正化の検討（JIF からカテゴリランクへのシフト等）、である。本発表では、これら運用の初期段階で見えてきた知見を共有し、医科系大学における持続可能な OA 支援の在り方について考察する。

CiNii Books ユーザから見た CiNii Research における CiNii Books 機能統合について

岡田智佳子

特定非営利活動法人大学図書館支援機構

国立情報学研究所（NII）が提供する CiNii は、論文、図書・雑誌、博士論文などの学術情報を検索できるデータベース・サービスである。現在は、全国の大学図書館等が所蔵する図書・雑誌の情報を検索できる CiNii Booksⁱと、論文や目録情報に加え、研究データやプロジェクト情報などを統合的に検索できる CiNii Researchⁱⁱで構成されており、学術情報流通を支える基盤的サービスとして広く利用されている。

NII は、CiNii サービスのさらなる発展を目的として、CiNii Books の機能を CiNii Research へ統合する方針を示し、2026 年 3 月に機能統合を完了したⁱⁱⁱ。CiNii Books は約 1 年間の並行稼働期間を経て、2026 年度末にサービスを終了する予定である。

この統合プロセスにおいて、NII は「図書館総合展 2025 フォーラム」^{iv}や「NII 学術情報基盤オープンフォーラム 2026」^v等を通じて、統合後のサービス像を示してきた。しかし、「機能統合」は CiNii Books の機能がそのまま CiNii Research へ移行されることを意味するものではなく、図書館総合展 2025 フォーラムでは参加者から多くの質問や要望が寄せられた。

本発表では、CiNii Research への機能統合によって、実際の資料検索環境がどのように変化しているのかを、CiNii Books 利用者の視点から報告する。特に、CiNii Books で利用できる機能のうち CiNii Research では利用できなくなったものと、新たに利用可能となったものを整理し、CiNii Books サービス終了後を見据えた利用者側の注意点について検討する。

あわせて、CiNii Books の基盤である総合目録データベース（NACSIS-CAT）の現状についても報告する。近年、NACSIS-CAT 参加館において総合目録データベースへの所蔵登録を控える動きがみられ、CiNii 上では確認できない所蔵情報がカーリル^{vi}などの OPAC 横断検索サービスでは確認できる事例も生じている。こうした動向は、NACSIS-CAT の網羅性や信頼性に影響を及ぼすものであろう。

ⁱ <https://ci.nii.ac.jp/books/>

ⁱⁱ <https://cir.nii.ac.jp/>

ⁱⁱⁱ <https://support.nii.ac.jp/ja/news/cinii/20260330>

^{iv} 「CiNii Research の統合と展開」 <https://www.nii.ac.jp/event/other/libraryfair/2025/>

^v 「OA 時代の CiNii に向けて」 <https://service-event.nii.ac.jp/openforum/detail/27>

^{vi} <https://calil.jp/>

医学生物学分野における高被引用論文の オブソレッセンス

天野 晃
鹿児島大学

論文（集合）におけるオブソレッセンスの捉え方はさまざまであるが、一般的には（被）引用半減期や Immediacy Index / Impact Factor 比などの指標が用いられることが多い。一方、本研究ではこのような既存の指標のみからでは見えにくい被引用数の変動やこれによる順位の変動のようなダイナミクスに着目する。本研究では FTP 版 PubMed annual baseline（2023）を用い、1946 年から 2020 年までに出版された論文の参照情報を収集、75 年間の引用関係を整理した。この引用関係において、参照を持つ論文はおよそ 700 万、少なくとも 1 回の引用を受けた論文はおよそ 1900 万、延べ参照数はおよそ 2 億であった。「高被引用論文」の定義は、最も引用を受けた上位 1000 件の論文とした。この高被引用論文群は引用を受けた論文全体の 0.005%であり、被引用数では全体の 1.7%を占めていた。また、被引用数とそのランクの関係を Zipf 式 $[Cr^{-a}]$ ； C, a : 係数； r : ランク にフィットさせたところ、係数 a の値は 0.5 とかなり低く、十分に被引用数の高いもののみを抽出できていると推察される。まず高被引用論文全体の特性を確認した。全体的な傾向として、新しい論文ほど出版直後から引用を受けているように見える（図は省略）。出版年では 10~14 年前のものが最多であった。順位変動については、Kendall の順位相関を年ごとに（前年との比較）算出したところ、初期においては変動が激しいものの概ね 0.7~1 の範囲であり次第に減少傾向にある（図は省略）。次にオブソレッセンスについて観察した。オブソレッセンス到達の定義を、(1) 出版から最大被引用までの期間 + 減衰期間 + 減衰後の期間 $\geq$ 10 年、(2) 出版から最大被引用までの期間 $\leq$ 減衰期間 + 減衰後の期間、(3) 最大被引用の年を経たあとに年間被引用数が被引用数累積の 5%未満となる年が存在すること（最大被引用の年からこの最初の年までを減衰期間とする）、とした。この結果 142 論文がオブソレッセンス到達と判定された。オブソレッセンス到達論文とそれ以外の論文の特徴差を確認すると、出版から最大被引用までの期間の最頻値が 4~5 年/12~13 年、減衰期間の最頻値が 6~7 年/6~7 年、出版から減衰期間までの最頻値が 16~17 年/18~19 年であった。オブソレッセンス到達論文の出版から最大被引用までの期間および減衰期間については過去の報告（参照は省略）と整合的であった。オブソレッセンスとリバイバル性との関係を検証するために、オブソレッセンス到達論文とそれ以外の論文とで多峰性に差があるか検定を行った。多峰性テストでは、Gaussian Mixture Model、Kernel Density Estimation、単調増加を検知する独自アルゴリズムによる複合判定を行い、ピーク数を推定した。オブソレッセンス到達論文では 57%、それ以外の論文では 58%に多峰性が認められ、双方のピーク数に対する Mann-Whitney 検定の結果 P 値は 0.97 であり有意差は認められなかった。なお、これは多峰性テストに必要な期間に満たない論文（19 件）を除外した結果である。

日本発の学術情報の計量的分析

－ Journal Citation Reports に収載される医学雑誌を中心に －

城山泰彦 (KIYAMA Yasuhiko)

順天堂大学 本郷・お茶の水キャンパス学術メディアセンター

I. 背景と目的

近年、世界的な論文数および雑誌数の増加に伴い、日本の学術発信力の低下が懸念されている。具体的には、Web of Science (WoS) における日本の国別論文数は、2000 年代前半の世界 3 位から、2021 年以降は 8 位に後退した。また、Journal Citation Reports (JCR) における日本の収載雑誌数も、2000 年代の世界 5 位から 2024 年版では 13 位 (364 誌、1.6%) に下落した。本発表では、日本から発行される JCR 収載誌を計量的に分析することで現状を把握し、国際的な影響力を高めるための方向性を検討することを目的とする。

II. 調査方法と調査項目

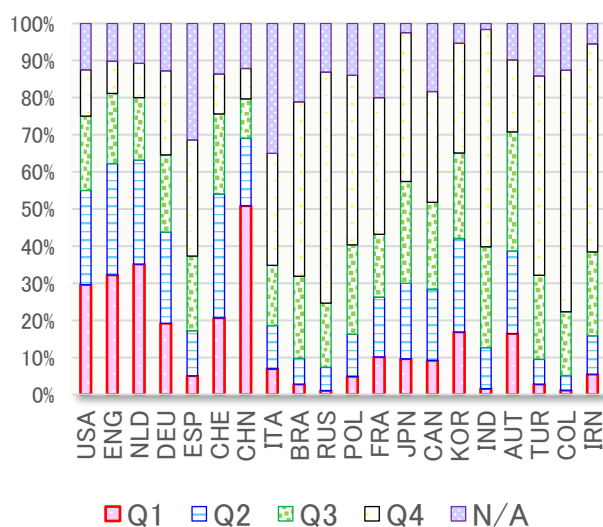
1980 年から 2024 年を対象に、WoS、JCR、および研究評価ツール InCites Benchmarking & Analytics を用いて計量的な分析を行った。調査項目は、日本発の雑誌数、学問分野、ジャーナル指標 (Journal Impact Factor (JIF) 値や四分位指標 (Quartile) 等)、国際共著文献の割合、被引用状況等とした。さらに、日本の医学分野の動向を把握するため、日本医学会分科会に所属する学会が発行に関与している欧文誌を対象とした調査を行った。

III. 結果と考察

2024 年版の JCR 収載誌数上位 20 개국における、四分位指標を分析した (下図)。各学問分野において JIF の上位 25% にあたる「Q1 誌」の割合は、中国が最も高く、大手出版社を擁するオランダ、英国、米国がそれに続いた。日本は 364 誌中 35 誌 (9.6%、重複を含む 41 学問分野) が Q1 誌であった。

日本医学会分科会所属の 145 学会が関与する欧文誌は、国内・国際共同を含めて、103 学会の 113 誌を確認した。発行形態は、学会 33 誌 (29.2%)、商業出版社との連携・委託 80 誌 (70.8%) であった。JCR の収載は 102 誌 (90.3%) で、Q1 誌は 17 誌 (15.0%) を確認した。日本医学会分科会からの Q1 誌の割合は、国内平均より高いが、国際水準と比べて限定的であった。

現状の把握と、国際的な影響力を向上させるための方策を検討する。



口頭発表 C



国内学協会誌の著作権に関する記述調査

(生命科学分野、2026)

－2022 年との比較－

前田郁子

大阪大学附属図書館研究開発室

本調査は、国内学協会による自機関発行ジャーナルの著作権およびライセンス規定・ポリシーについて実際の文書記述をもとに調査した昨年ⁱの続編となる。昨年の調査では、学会名鑑の分野区分全 30 分野について会員数上位 10 団体すべての学協会とジャーナルを対象としたⁱⁱ。本調査ではこれらのうち生命科学 10 分野を対象に改めて整理を行った。その結果、対象ジャーナルタイトル数は 486 から 139 となった。また昨年のデータ収集時期は 2022 年 1～2 月であり、現在までの間に政策や社会情勢に様々な変動があったため、改めて 2026 年の文書を収集し比較を試みた。

対象学協会とジャーナルは 2022 年データ収集時のものをそのまま使用している。収集対象文書も前回同様、著作権規定、投稿規定、執筆要領、その他著作権に関する手続き文書であり、ウェブ上に公開されているものを対象としている。従って冊子のみに掲載されているものや会員等にアクセス限定されているものに関しては収集していない。

著作権のポリシーは学会の方針、ジャーナルの性格、プラットフォーム(海外出版社等を含む)によって異なるため、プラットフォーム、ジャーナルの和洋についても情報収集の対象とした。

2022 年の段階では、139 誌のうち 7 誌には著作権に関する記述がウェブ上で見当たらず、それらはすべて和雑誌であった。うち 4 誌はウェブ上に投稿規定自体をみつけることができなかった。また著作権に関して、学会の著作権規定として策定しているものが 13 誌、ジャーナルごとの投稿規定を設けているものが 119 誌であった。

オープンアクセスについては、刊行途中からオープンアクセスジャーナルに変更された場合、オープンアクセス変更前のものと変更後のものとに別々のポリシーを適用させるケースも多く見られたため、記述分析の中で言及する。これらについて 2026 年の状況とも比較し、当日報告する。

ⁱ 国内学協会誌の著作権に関する記述調査－投稿規定，著作権規定等の文書より－，2025，MIS40 での発表

<https://plaza.umin.ac.jp/mis/40/program.html> (accessed 2026-06-29)

ⁱⁱ 「研究分野の多様性を踏まえた研究公正規範の明確化と共有」(科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム(第 3 期：令和 3～6 年度)採択課題)の一環として収集したもの。

NLMC 翻訳から 10 年：翻訳後の変化の調査

橋本 郷史

東邦大学医学メディアセンター 大橋病院図書室

【目的】米国国立医学図書館分類法(以下 NLMC)の、最後に日本語に翻訳されたバージョンは 2016 年版である。翻訳から 10 年が経ち、NLMC には多くの変更が加えられた。翻訳版と最新版にどのような差が生じているかを確認するため、10 年間の変化を調査した。

【方法】NLMC は 2017 年以降、冬(1 月頃)と夏(9 月頃)に毎年 2 回ずつ改訂されている。改訂内容はその都度 **Technical Bulletin** として公表され、そこには、変更内容の量的な概要(xx 個の分類番号が追加された、など)と、記述による説明が含まれる。2017 年 1 月から 2026 年 1 月までの 19 回の **Technical Bulletin** を用いて、量的な変更の全体像と各改訂の内容を確認した。また、NLMC の分類番号の追加と削除を累積でリスト化した **Cumulative List** が別途公開されている。そこには、追加・削除された分類番号がいつの改訂でどこから移動してきたか(どこへ移動したか)、という情報が掲載されている。**Cumulative List** を用いて、分類番号のより詳細な変更内容を確認した。

【結果】変更の種類には、追加(Add)、修正(Modify)、削除(Delete / Cancel)の 3 種類がある。また、変更が発生する箇所は大まかに、索引語(index heading)、分類番号(class number)、分類表見出し(schedule header)、の 3 箇所に分けられる。

10 年間で、計 7,845 件の変更が加えられていた。各変更の内訳は表 1 の通りである。

特に NLMC のユーザーに影響するのは、分類番号の追加・削除である。追加と削除が多かった分類の上位のものを書き出したのが表 2 である。列「2016」は 2016 年版時点の分類番号の数である。Added/Deleted の%は分類外から(へ)の移動の割合を表している。

WD は、変更が最も多く、元の分類番号の約 8 割が削除されている。追加も削除も分類外との間で行われており、大規模な再構築があったことがわかる。WD から移動した分類の一部が QU に流入している。

WS は、最も多くの追加があり、その一方で削除は少なかったため、10 年間で最も数が増加した分類になっている。

WJ からは多くの分類番号が外部に移動し、それらが WP に流入している。

これらの分類で何があったのかの詳細や、その他の変更、日本語版との相違点などについて、口頭発表内で報告する。

表 1. 変更種類・箇所のクロス集計表

	Added	Modified	Deleted	SUM
index heading	945	4,058	572	5,575
class number	657	1,161	221	2,039
schedule header	27	184	20	231
SUM	1,629	5,403	813	7,845

表 2. class number 追加・削除数(分類別)

Class	2016	Added (from Out)		Deleted (to Out)	
WD	97	73	(86.3%)	78	(96.2%)
WS	132	83	(43.4%)	7	(0.0%)
QW	210	44	(61.4%)	7	(0.0%)
QU	140	43	(74.4%)	3	(33.3%)
WM	227	43	(53.5%)	1	(0.0%)
WK	94	25	(40.0%)	14	(35.7%)
WJ	84	8	(0.0%)	27	(74.1%)
WP	93	25	(92.0%)	9	(55.6%)

Cochrane Central Register of Controlled Trials

収載の臨床試験レジストリーの有用性

鈴木孝明 1)、大瀬戸貴己 2)、大内田京菜 2)、木下智子 2)

1) 奈良県立医科大学教育支援課（元附属図書館）、2) 奈良県立医科大学附属図書館

コクランレビューなどのシステマティックレビューを作成する上で、網羅的な文献検索を依頼される際に、MEDLINE などの書誌情報データベースに加えて、論文として報告されていない現在進行中の臨床試験を含める目的で、ClinicalTrials.gov(以下 CTG)や WHO ICTRP などの臨床試験レジストリー (Clinical Trials Registry : 以下 CTR) の調査依頼が増えている。

コクランでは、網羅的な検索を行う上で出版バイアスを最小限に抑えるために CTR も調査することを推奨している。

CTR は原則無料で提供されているが、書誌情報データベースとは異なり、検索機能が充実しているとは言えない。

一方、Cochrane Central Register of Controlled Trials(以下、CENTRAL)では 1999 年ごろから CTG 及び ICTRP の収載が始まっている。出版大手のワイリー社が提供しているプラットフォームなので、検索機能が充実しており、動作も安定している。ここに収載されている CTR をもって、調査を済ませたと言うことができればとても効率的である。

先行調査として、Banno M.らは、2019 年 6 月から 12 月に出版されたコクランレビューの中で参照されている CTG または ICTRP から検索された臨床試験が、CENTRAL に収載されている割合を調べ、不十分であると結論付けている。

そこで、CENTRAL への CTR の収載状況（更新頻度、タイムラグ、収載内容など）を調査するとともに、先行調査とは別の手段を取り、一定期間に CTG 及び ICTRP で公開された臨床試験から RCT および q-RCT を抽出したものが、CENTRAL に収載されている割合を調べ、CENTRAL の有用性をあらためて確認する。

参照 [accessed 2026-5-26]

1.How CENTRAL is created

<https://www.cochranelibrary.com/central/central-creation>

2.Banno M, Tsujimoto Y, Kataoka Y. Using the Cochrane Central Register of Controlled Trials to identify clinical trial registration is insufficient: a cross-sectional study. BMC Med Res Methodol. 2020 Jul 25;20(1):200. doi: 10.1186/s12874-020-01083-y. PMID: 32711471.

3.ClinicalTrials.gov

<https://clinicaltrials.gov/>

4.International Clinical Trials Registry Platform (ICTRP)

<https://trialsearch.who.int/>

日本発システマティックレビューにおける 文献検索の報告状況と質の評価 ーランダムサンプルに基づく予備的解析ー

小嶋智美^{1) 2)}、眞喜志まり¹⁾

1) 慶應義塾大学医学部 衛生学公衆衛生学教室 HTA 公的分析研究室、

2) Independent Librarian

【目的】日本から発信されたシステマティックレビュー（SR）を対象に、書誌データベースを用いた系統的文献検索の報告状況と検索式の質を評価する横断的方法論的研究の実施に先立ち、本研究のプロトコルの妥当性を検証するため、ランダムサンプルによる予備的解析を実施した。

【方法】2025 年に公開された日本発の SR を対象に、PubMed、Embase、Cochrane Database of Systematic Reviews（CDSR）、医中誌 Web から SR を収集した。Rayyan を用いた二段階のスクリーニング後、random.org を用いて 50 件のサンプルを無作為に抽出した。各 SR の評価についても二段階の構造で行った。Phase 1 では PRISMA-S の 5 項目（データベース名・複数 DB 情報・完全検索式・検索日・ヒット件数）を主なゲート基準として用い、判定結果の相反を解消した後、5 項目すべてを満たす文献のみを Phase 2 へ進めた。Phase 2 では PRESS の 6 ドメイン（リサーチクエスションの翻訳・検索演算子・件名標目・テキストワード・スペル/構文・制限とフィルター）を 3 段階（A：修正不要、B：修正提案、C：修正必須）で判定した。PRESS では相反解消は行わず、方法論の妥当性と共に全データを対象とする本解析での評価基準を明確にするため、判定結果の一致度を見た。副次的な調査として、情報専門家の関与について明示の有無および各 SR で使用した書誌データベースの洗い出しを行った。

【結果】予備的解析の対象となった 50 件のうち、PRISMA-S によるゲート判定を通過したのは 2 件（4%）であった。2 件のうち 1 件はいずれかの評価者による C 判定が認められた。残る 1 件は全ドメインで A・B 判定となった。なお、PRESS に進んだ 2 件は、いずれも情報専門家の関与が論文内で示されていた。サンプル対象の 50 件で使用された書誌データベースの内訳については発表時に報告する。

【考察】予備的解析では PRISMA-S によるゲート通過率が 4%と低く、文献検索の質の評価以前となる、報告方法自体に課題があることが示された。PRESS による判定が可能であったのは 2 件にとどまったが、予備的解析を通して判断の揺れやすい PRESS の B と C の基準を明確にし、プロトコルを確定することができた。本解析では 2025 年公開の日本発 SR 全件を対象に、予備的解析によって確定したプロトコルで文献検索の報告状況と質を評価する予定である。なお、本発表に関わる関連資料は Open Science Framework (OSF) のプロジェクトページ (<https://osf.io/xgfq2/>) で公開する。

ポスターセッション



天使病院小児科・NICU の抄読会で読まれた文献の 集計と分類

工藤 女恵

天使病院 中央図書室

■ 背景と目的

天使病院の小児科・NICU では 10～12 名の医師・研修医が参加し、合同で抄読会が定期開催されている。その歴史は長く、1984 年には既に実施されていたことが分かっている。2019 年度から中央図書室では抄読会で紙配布されるレジュメを保管し、閲覧に供している。本調査は、天使病院で小児医療に携わる臨床医が抄読会で採用した文献の可視化を目的とした。公表にあたり、抄読会関係者から許可を得た。

■ 対象と方法

抄読会のレジュメ（2019～2025 年度分）に記載された 155 文献。レジュメ作成者の属性別件数は、研修医 61 件、研修医以外の医師 71 件、そのいずれか不明なもの 23 件。紙媒体で保管しているレジュメから書誌情報を抽出・データ化し、8 項目で集計・分類した。

①購読誌/非購読誌 ②OA/非 OA ③非 OA かつ非購読誌の場合のフルテキスト入手方法
④OJ/冊子体 ⑤掲載誌 ⑥文献の新しさ（出版年） ⑦研究デザイン ⑧主題

■ 結果

購読誌からの採用 83 件（53.5%）中、OA 文献 43 件、非 OA 文献 40 件だった。非購読誌からの採用 72 件（46.5%）中、OA 文献 58 件、非 OA 文献 14 件だった。全体では OA 文献 101 件（65.2%）、非 OA 文献 54 件（34.8%）だった。非購読誌かつ非 OA 文献である 14 件中、ILL での入手は 10 件、入手経路不明は 4 件だった。媒体は OJ が 134 件（86.5%）で、OJ で閲覧不能の場合は冊子体の利用が 21 件（13.5%）あった。小児科系雑誌からの採用は 49 件（31.6%）、非小児科系雑誌からは 106 件（68.4%）だった。出版年は、Article in Press が 4 件（2.6%）、当年 71 件（45.8%）、1 年前 51 件（32.9%）と続き、採用文献の 80%以上が 1 年前までに出版されていた。研究デザイン別では、実験的/介入研究が 61 件（39.4%）、観察研究が 58 件（37.4%）と、両者はほぼ均等に読まれていた。治療に関する文献が 68 件（43.9%）と最多だった。全体でもレジュメ作成者の属性別でも、抄読会で頻回に扱われていた主題は無く、最多だった主題「川崎病」でも 7 回に留まった。

■ 考察

141 件は購読誌か OA 文献（またはその両方）で「すぐ全文が読めるもの」が採用されやすいと思われた。ILL によらない自力入手と思われる 4 件があり、利用者支援における反省点となった。購読誌・OA 文献・ILL を利用し、小児科系雑誌以外からも多様な主題の新鮮な文献が読まれていると分かり、抄読会はその役割を果たしていると考えられた。

森鷗外の医学情報の受容

山田 栄官

東京慈恵会医科大学 学術情報センター図書館（司書）

本発表では、文豪であり陸軍軍医として国内の医療制度の設計に中心的に携わった森鷗外（以下、鷗外）が、どのように当時の医学情報を受容し、陸軍軍医としての彼の思想的な基盤を構築したか、主にドイツ留学時の関心や動向を、参考資料¹をもとに整理し報告する。また、ドイツ留学を経た鷗外の医学情報の受容のあり方と、その後の脚気論争における彼の立場との関係性を説明することも射程に入れる。

鷗外は東京大学医学部を卒業後、陸軍軍医の立場で留学を志願したことを契機に、陸軍医事調査と衛生学研究を目的として、1884年に陸軍省よりドイツへの国費留学を命じられた。1884年ベルリンに到着した鷗外は、その後ライプチヒに移り、ライプチヒ大学のホフマン教授に師事し衛生学の基礎を学んだ。翌1885年にドレスデンに移った際には、ザクセン軍医監のロートに師事した。ドレスデン軍医講習会は欧州のなかで随一の質の高い講習であり、本来であれば受講するためにはザクセン国王の許可が必要であったが、ロートの厚遇を受けたことで、鷗外は軍陣衛生学を受講する機会に恵まれた。1886年にはミュンヘンに移り、ミュンヘン大学のペッテンコフ教授に師事した。この時期に、「ビールの利尿作用について」という研究テーマを追究するべく、鷗外自身も被験者となりビールに含まれる成分のうち利尿作用がある成分を特定すべく尽力した。1887年から1888年にかけては、北里柴三郎の紹介でベルリン大学のコッホの研究室に入った。1888年ドイツ留学から帰国した鷗外は、陸軍の上司にあたる石黒忠恵の指示で、『陸軍衛生教程』（1889年）を執筆したことに端を発して、小池正直とともに『衛生新編』（1897年）を、さらに講演録として『衛生学大意』（1907年）を出版し、衛生学を学問的に体系立てることに貢献した。

以上に述べた、ベルリン、ライプチヒ、ミュンヘンでの滞在期間において、鷗外は軍医となった当時から一貫して関心を抱いていた栄養学の調査を継続するなど、ドイツ留学中に旺盛な研究意欲を発揮した。鷗外が所属した東京大学医学部や陸軍においては、脚気は細菌による伝染病が原因であるという言説が権威を有していた。ドイツ医学を中心的に受容していた鷗外もこの説を支持する形で、当時日本の軍隊における兵食として導入されていた白米を主食した食事で栄養上の問題がないことを、1886年に掲載された「日本兵食論大意」で示しており、脚気対策の主眼を病原菌の発見に据えた。しかし結果的には、日清・日露戦争において多数の脚気患者が発生する事態となり、鷗外は彼自身が従前より唱えていた脚気対策の妥当性の問題と切実に向き合うこととなる。1907年に陸軍軍医総監、陸軍省医務局長に就任した鷗外は、脚気の原因を究明することを目的とした臨時脚気病調査会の初代会長や委員長を担う等、最終的に脚気の原因がビタミンBの欠乏にあるという説を確立したこの調査会と関わり、彼自身の関心や責任と生涯を通じて真摯に向き合い続けた。

¹ 本抄録を記すにあたっては、文京区立森鷗外記念館 平成27年(2015)度特別展「ドクトル・リントロウ 医学者としての鷗外」展覧会図録を主に参照している。

とほにゃん発祥の地 滋賀で明かされる誕生秘話： あるいは図書館施設におけるマスコット キャラクターの活用と展開

大谷裕¹⁾、土肥加代子²⁾

¹⁾ 東邦大学医学メディアセンター、²⁾ 株式会社サンメディア

東邦大学では 2012 年より、メディアセンターのマスコットキャラクターとして三毛猫の「とほにゃん」を活用している。「とほにゃん」は MIS28 京滋大会（2011 年）の夜に、当時、東邦大学が導入準備を進めていたディスカバリーサービス「Summon」を学内にアピールするための手段を、契約代理店のサンメディアと相談していた折のふとした会話から誕生したものである。

本発表では、とほにゃんの誕生から現在にいたるまでの 15 年の活動を報告する。

1. とほにゃんのあゆみ

(1) 黎明期（2011 年～2012 年）

- ・発端は 404 not found アイコン：とほほのとほにゃん
- ・なぜ猫なのか：ひこにゃんと東邦キャンパスねこ「モフ夫先生」
- ・ファーストリリース：Summon アイコンと解説マンガ

(2) 普及期（2012 年～2015 年）

- ・メディアセンターグッズの作成・配布（クリアファイル、付箋）
- ・メディアセンター広報での活用

(3) 成熟期（2015 年～）

- ・教職員からの利用申請
- ・メディアセンターとサンメディアによる「とほにゃん」使用についての覚書取交し
- ・「とほにゃん利用申請サイト」の設置

2. キャラクターとしてのとほにゃん

(1) デザイン

丸みのあるフォルムとやさしい表情が特徴で、親しみやすさと安心感のあるキャラクターデザイン。白を基調としたシンプルな造形に、衣装や季節モチーフを組み合わせた豊富なバリエーション展開により、図書館の広報に統一感とフレンドリーな印象を与えている。

(2) 設定

とほにゃんは性格、性別、生い立ち、生活環境といったプロフィール設定を一切持たない「白紙」の存在である。これにより「利用者ごとの自由な解釈」、「アイコンとしての認知度向上」、「運用のしやすさ」が生まれ、多くの人に親しまれている。

病院図書業務における業務手順共有の課題

－新任者の実務経験を事例として－

高橋 のぞみ

北見赤十字病院（図書室）

【背景】

新任として図書業務に着任した際、マニュアルは存在したものの、業務フロー、検索手順、契約情報、文書管理といった業務遂行に必要な情報が複数の場所に存在しており、必要情報の把握に時間を要する状況があった。

【事例】

業務開始時には、既存のマニュアルや過去のメール、保存資料を参照しながら手順を確認する場面があった。また、資料検索では過去の検索事例の共有が限定的であり、目的資料の特定に時間を要することがあった。契約関連情報についても、更新状況や管理情報の確認に追加の手順を要する場面があった。さらに、文書管理では保存形式や命名方法が複数存在しており、必要資料の所在確認に時間を要する場面が見られた。

【考察】

日常的・継続的に運用される業務で、かつ少人数体制の業務は情報が個別の資料や担当者ごとの管理方法に分散しやすく、結果として暗黙知として共有されにくい傾向や、全体像の把握に時間を要する側面がある。本事例では、業務フロー、検索手順、契約情報、文書管理の各領域において、情報の整理方法および共有の仕組みの重要性が改めて認識された。業務多忙な状況下では、必要な知識を残す方法は担当者ごとに多様であり、それぞれの工夫のもとで業務が支えられている。一方で、一定の手法や整理の枠組みを共有・標準化することにより、継続的に引き継がれる仕組みの構築が可能になると考えられる。

【結論】

業務手順および関連情報の可視化と整理は、担当者交代時に限らず日常業務の効率化にも影響する重要な要素である。本事例から、暗黙知に依存しない情報整備と、継続的に更新・共有できる仕組みづくりの必要性が示唆された。

地域に開かれた対話の場をつくる

—京都府立図書館「みんなのがん教室」実践報告—

山下ユミ、島村聡明、横山知尋
京都府立図書館

【はじめに】

がん患者やその家族にとって、病院での情報へのアクセスには心理的な障壁が伴うことが多い。そのため、中立的で誰もがアクセスしやすい公共図書館において情報提供を行う意義は大きい。京都府立図書館では 2024 年から健康情報に関する講座を実施してきたが、2025 年度は国立がん研究センターの助成を受け、大学病院等と連携した新たな情報提供の場づくりを試みた。

【方法】

全 4 回の「みんなのがん教室」を開催した。各回において、専門家による講義、関連図書・パンフレットの展示、および参加者との対話を組み合わせた構成で実施した。すべての講座は会場で実施したが、第 3 回はライブ配信を実施し、第 1・2・4 回は後日一部の動画を配信した。

【結果】

全 4 回で延べ 87 名が参加した。「身内のがんに罹患したばかりで知識がない」といった、病院の相談支援センターへ行くことをためらう参加者など、病院で本格的な情報収集を行う前の段階にある層へアプローチすることができた。また、参加者からは「温かく参加しやすい雰囲気」が高く評価された。さらに、本講座での対話が契機となり、がん相談支援センターの認知度向上、地域コミュニティ間の交流促進、およびがん患者・家族会への橋渡しといった具体的な成果が得られた。

令和 7 年度 京都府立図書館「みんなのがん教室 2025」の実施状況

	タイトル	講師	日程	参加人数
第 1 回	「がんになっても自分らしく生きよう」	小口浩美氏、彦田かな子氏、大島直也氏 (一般社団法人 LINKOS がん教育講師)	2025 年 10 月 25 日(土)	25 名
第 2 回	「健康に関して信頼できる情報を探そう・見極めよう」	北澤京子氏(医療ジャーナリスト)、岡林里枝氏(京都大学 環境安全保健機構)	2025 年 11 月 18 日(火)	20 名
第 3 回	「からだ・こころ・くらしの整え方～看護師・臨床心理士・社会福祉士と話してみませんか?～」	里見志穂氏(臨床心理士)、関口由紀子氏(社会福祉士)、酒井慈水氏(看護師)	2025 年 12 月 21 日(日)	20 名 (内オンライン 4 名)
第 4 回	「納得して治療や旅立ちを決める～生きる基軸を立てようじゃありませんか～」	佐藤恵子氏(京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 特任准教授)	2026 年 2 月 28 日(土)	22 名

【考察】

専門家との対話を取り入れた公共図書館のプログラムは、がん情報に対する市民の心理的ハードルを下げ、適切な支援への接続に有効であることが示唆された。

図書館東海目録サービスの活動について

小林晴子

図書館東海目録サービス

図書館東海目録サービスは、医学・医療その他関連領域の図書館の相互協力とネットワークの形成を通して、医学と医療の進歩発展に貢献することを目的とする団体である。2025年3月に設立され、主たる事務所を名古屋市に置く。

本団体の前身である「東海目録」は、東海地区医学図書館協議会において、目録データの提供・利用を目的とした会員組織を対象に、東海目録作成ワーキンググループを中心として運営されてきた。しかし、2024年の同協議会解散に伴い、「東海目録」も一旦解散することとなった。その後、資産および事業を継承し、主に同ワーキンググループのメンバーにより設立された後継団体が図書館東海目録サービスである。

本団体は、従来のサービスを継承しつつ、医学文献の相互利用の促進、研究会・講習会の開催などを事業として展開している。また、図書館関係団体等との連携を通じて、広域的なネットワークの形成と維持を図っている。

2025年度は、活動方針の策定および運営体制の整備を行い、団体会員29、個人会員2の計31会員で活動を開始した。広報活動として公式ホームページの開設や会報を発行し、活動内容や研究会情報を発信するとともに、メーリングリストを整備し、会員間の情報共有基盤を構築した。研究活動としては、日本看護図書館協会との共催による研究会を実施し、これにより館種を超えた連携と知見交換の促進が図られた。そのほか、説明会・勉強会も開催している。また、図書館用品の一部割引など、企業との連携も開始した。情報基盤の中核として、電子ジャーナル管理システム TOMcat・EJ の運営・保守を継続しており、データベース契約に関する協力など、発展的なサービスへの準備を進めている。さらに、電子媒体の共同利用に向けたコンソーシアム形成の検討を進めている。

以上の取り組みにより、地域における図書館連携の基盤形成が進みつつある。今後は、共同リポジトリの構築やコンソーシアムの具体化等を通じて会員の拡大を図り、持続可能な広域連携モデルの確立を目指す。

プロダクトエキシビション



NPO 医学中央雑誌刊行会

株式会社サンメディア

ユサコ株式会社

株式会社ブレインテック

iJapan 株式会社

EBSCO Information Services Japan 株式会社

株式会社メテオ

日本事務器株式会社

特定非営利活動法人 ScholAgora

ワイリー・パブリッシング・ジャパン株式会社

株式会社紀伊國屋書店

Wolters Kluwer / Ovid

丸善雄松堂株式会社

医学中央雑誌刊行会の提供サービスのご紹介

寺脇一寿

NPO 医学中央雑誌刊行会 データベース事業部

本プロダクトレビューでは、医学中央雑誌刊行会の提供サービスに関する情報をご紹介します。

1. 医中誌 Web フルテキストリンクが 500 万件を突破

2026 年 3 月のデータ更新で、医中誌 Web のフルテキストリンク（電子ジャーナルサイト等の本文提供サイトへのリンク）の件数が 500 万件を超えました。医中誌データベース約 1,690 万件のうち約 30%、さらに 2016 年～2025 年の 10 年分では約 40%、論文種類を原著論文に限定すると約 75%にフルテキストリンクがあります。

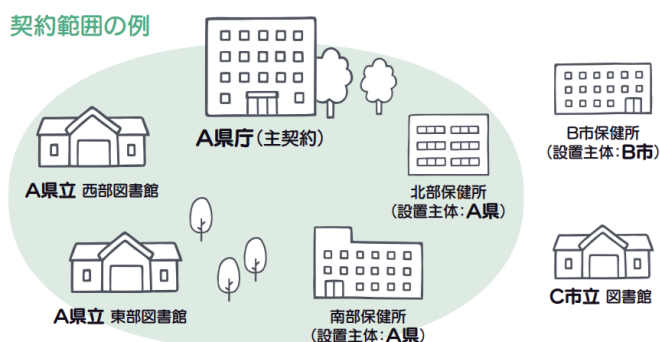
フルテキストリンクは、J-STAGE や機関リポジトリ、医書.jp オールアクセスやメディカルオンラインなど、それぞれ充実した多様なサービスと連携しているほか、学協会などがウェブサイトで独自に公開している雑誌論文への直接リンクにも現在注力しています。

今後も引き続き「文献データの網羅的な収録」と「本文へのスムーズなナビゲート」に努めてまいります。

2. 医中誌 Web「自治体（行政機関・図書館）プラン」新設

2026 年 4 月から医中誌 Web の新しい契約プランとして「自治体（行政機関・図書館）プラン」を開始しました。都道府県庁や市区町村役場、保健所・保健センターなどの行政機関と、公立図書館が対象のプランです。（医療機関や教育機関は本プラン対象外です。）

自治体内の対象機関いずれかで契約いただければ、同一自治体が設置主体となっている対象機関でもマルチサイト契約の必要なくご利用いただけます。



これまでの「公共図書館様向けプラン」に替わるプランで、従来通り図書館で市民向けサービスのひとつとして利用いただくだけでなく、行政機関で公衆衛生分野や健康福祉分野等の資料収集ツールのひとつとして活用いただけるよう対象機関を拡大したものです。

地域の医療健康・社会福祉の向上にお役立ていただければ幸いです。

会期中はブース出展しております。お気軽にお立ち寄りください。

日本の知を元気にする！ ～情報を届ける会社から、価値をつくる会社へ～

株式会社サンメディア

1964年の創業以来、サンメディアは学術・医療情報の流通と活用を支えてきました。そして今、AI時代の到来や研究・情報利用環境の変化を受け、「第二創業」として新たな挑戦を進めています。単なる情報提供にとどまらず、研究支援、コミュニティ形成を通じて、“日本の知を元気にする”価値創造企業へと進化します。



株式会社サンメディア アカデミックソリューション

✉ e-port@sunmedia.co.jp

☎ 03-3299-1575



★サンメディアのブースで様々なサービスをご紹介します！ぜひお立ち寄りください。

24時間以内の電子提供を目指す世界規模の次世代 ILL プラットフォーム「RapidILL」、
様々な経路からコンテンツへのアクセスを実現するリモートアクセスサービス「MyLOFT」、
Alma、ProQuest、著作権研修サービス、等

Article Galaxy / Article Galaxy Scholar (AGS)

ードキュメントデリバリープラットフォームのご紹介ー

井手孝次郎
ユサコ株式会社

米国を拠点に 2006 年に設立された Research Solutions 社は、ドキュメントデリバリーを核に、学術コンテンツの検索、取得、管理をより容易に、効率的に行うためのソリューションを提供しています。弊社プロダクトレビューでは同社が提供する「Article Galaxy」と「Article Galaxy Scholar(AGS)」をご紹介します。

[Article Galaxy]

同社の主力製品である Article Galaxy のフィルター機能は、利用者が発注する際、オープンアクセスや購読ジャーナル、機関で購入しているトークンなど、組織内で利用可能な資源やレンタルによる入手の可否をチェックします。事前に発注すべき資料かどうかを確認し、もっともコストを抑えた入手手段を提示します。また検索機能を担う Article Galaxy Search は、「Scite」との機能統合により、検索対象が従来の Crossref DOI や PubMed ID を持つドキュメントから、さらに出版社のフルテキストや引用文などを含むコンテンツまで大きくカバー範囲が拡大しています。Article Galaxy プラットフォームには文献や書誌情報の管理機能である「References」が付属し、Article Galaxy 内で購入した文献の管理だけでなく、さまざまなフォーマットのファイル添付機能やアノテーション機能、データベースの更新情報を自動収集する RSS フィード機能を提供します。これらの機能により、Article Galaxy プラットフォーム上で組織内での文献の発見から取得、管理までをより効率的に行うことができます。

直近では、特定の条件の下、AI による文献の要約、分析などを行うための権利を購入することができるアドオン機能「AI Rights」や、生成 AI ツール上での一貫した操作を実現する「Article Galaxy MCP」がリリースされ、組織内での文献にかかわる AI 利用をサポートする機能の提供を開始しました。

[Article Galaxy Scholar (AGS)]

大学向けに開発された Article Galaxy Scholar（以下、AGS）は、図書館が導入しているリンクリゾルバーやディスカバリーサービスと連携し、利用者の文献検索の導線上から、機関で購読していない主要な学術出版社（約 80 社）が提供するジャーナルの論文を購読誌と変わらないスピード感で利用者に提供するサービスです。

AGS は購読に代わる手段として、利用者によるスムーズな論文入手を支援する一方、図書館は管理者向けツールから利用者やジャーナル単位で論文の購入上限数を設定することができ、毎月の購入状況から購入上限数を調整することで予算管理を容易にします。

中小規模向け図書館システム「情報館」のご紹介

林 一裕、西城戸 月海
株式会社ブレインテック

中小規模向け図書館システム「情報館」は、資料データ登録、貸出返却管理、統計処理、各種帳票出力といった蔵書管理に必要な機能を備えたパッケージシステムです。

1.業務システム

豊富なカスタマイズ機能を持ち、図書、雑誌のみならず、論文や図面など様々な資料を管理することが可能です。

2種類の分類項目が標準搭載されており、NDCと独自分類というように複数の分類記号を付与することができることから、所蔵資料のうち特定分野だけ割合が多くなりがちな専門図書館で多く活用されています。

情報館 ver.10 から搭載されたレファレンス管理機能では、利用者からの日々のお問い合わせを記録することができます。あわせてレファレンスで利用した図書を登録することで、貸出以外で役に立っている資料の可視化や、図書館の持っている資源の価値の高さを数字に表すことができます。また、毎日の貸出数、データ登録数、レファレンス件数等任意の項目を記録できる業務日誌機能や、督促者がいる場合に通知を出すといった各種アラート設定機能など、スタッフを支える機能が多数搭載されており、中小規模図書館の運営をバックアップします。



2.OPAC

OPACは視覚に障がいをお持ちの方にも使いやすいよう、W3Cが勧告する「WCAG (Web Content Accessibility Guidelines) 2.0」の達成基準レベル「AA」相当のアクセシビリティに対応しています。

パソコン、タブレット、スマホ等、利用者が使用するデバイスに合わせて、最適な画面に自動で切り替わります。

また、お知らせ・開館カレンダーなどの情報発信機能を持ち、図書館のホームページとして使うこともできます。さらに、オプションのデジタル資料公開機能を追加することで、PDF資料や画像を公開することもできます。



【お問い合わせ先】株式会社ブレインテック営業窓口 Email : sales@braintech.co.jp

OpenAlex Member (+) のご紹介

－Open Science への投資－

iJapan 株式会社
営業部 笠間 和喜

現在、日本では 2024 年 2 月の内閣府による「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」に基づき、機関リポジトリを活用した Green OA（グリーン・オープンアクセス）が着実に進展しています。

この流れを受け、国立情報学研究所（NII）の協力により、世界最大級の学術データベースである OpenAlex は、科研費の約 87 万件以上に加え、日本の学術リポジトリ、IRDB から約 370 万件のデータを取り込みました。これにより、日本の研究成果がオープンな環境で世界中から研究者からも API を利用したプログラムからも利用できる基盤が整いつつあります。

一方で、OpenAlex が主要なデータソースとしている Crossref のデータには課題も残されています。具体的には所属機関（Affiliation）や所属機関の永続識別子である Research Organization Registry（ROR）のデータに 10%～20% 程度の欠落が見られる点です。これらは他のデータベースにも影響があり、その修正の費用は、実質的に図書館の購読費に含まれております。

この課題を解決するため、フランスの国営機関リポジトリである HAL では自機関の論文を正確に識別・整理する「Works-Magnet」プロジェクトやバルセロナ宣言のワーキンググループが立ち上がっており、Affiliation や ROR 問題を解決しようとしています。そして現在、その商用版として OpenAlex Member サービスの提供が開始されています。

OpenAlex Member が提供する主な機能

- Affiliation Editor：所属機関情報の修正・編集によるデータの精度向上
- OpenAlex の機関 API モニタ：機関内ユーザによる OpenAlex API を活用した書誌情報ダウンロードのモニタリング
- Unsub.org：購読データ（利用統計・パッケージ価格・OA 収録・コンテンツ停止時のアクセス権・図書館相互貸借等）に基づき、学術雑誌のパッケージ契約判断を支援する意思決定ツール

OpenAlex における書誌情報の品質向上は、単なるデータ整備の枠を超え、大学ランキングや学術流通のあり方を変える可能性を秘めております。現在、OpenAlex では助成機関による資金提供の成果とその波及効果を正確に可視化するプロジェクトを推進しております。これにより、既存の商用引用データベースを補完あるいは代替し得る強力なインフラとなることが期待されております。

図書館員の皆様による OpenAlex をはじめとするオープンデータベースの周知やセミナーといった地道な取り組みは、単なる普及活動に留まりません。それは高額な商用引用データベースからオープン版へのスイッチングコストを抑制し、スムーズな移行を実現するための極めて重要なプロセスです。オープンサイエンスへの投資を最大限に活用し、整備された学術情報を次世代へと継承していくために、共に歩みを進めていきましょう。

医療系機関向けサービスのご紹介

ー多様なコンテンツ/サービスを提供し、研究・学修を支援しますー

EBSCO Information Services Japan 株式会社 営業担当

	内容
 (エブスコディスカバリーサービス)	Google ライクな単一インターフェースを通じて、図書館が所蔵する多様な資料を記事・タイトル単位で横断検索できます。臨床系ツールも検索対象に含めることができ、情報検索に不慣れな利用者でも必要な情報へスムーズにアクセス可能です。
 (ダイナメッド)	世界的に高い評価を受けている臨床意思決定支援ツールです。診療や治療の現場で生じる疑問に対し、毎日更新される最新のエビデンスをもとに迅速な情報提供を行います。箇条書き形式で読みやすく、ブラウザ翻訳機能にも対応しています。
 (ダイナエーアイ*) *英語のみ対応	DynaMed 上で利用可能な生成 AI 機能です。自然言語による検索を通じて、臨床現場に必要な情報をより迅速に取得でき、エビデンスに基づく意思決定を支援します。
 (メドラインアルティメット)	医学、薬学、看護学、歯科学、獣医学、ヘルスケア分野、前臨床医学など幅広い領域をカバーする、MEDLINE フルテキストの最上位版データベースです。約 3,100 誌の全文閲覧が可能です。
 (フルテキストファインダー)	医中誌や PubMed などの検索結果から、契約中の電子リソースに収録された文献へのアクセス方法を案内します。加えて、契約電子リソースやオープンアクセス資料のタイトル検索にも対応しています。
 (オープンアセnz)	世界的に利用されているリモートアクセスツールです。SAML 認証と IP 認証（プロキシ）を組み合わせたシングルサインオンを実現し、多様な学術リソースへの安全なアクセスを可能にします。ユーザー属性に応じたアクセス制御にも対応しています。

〈お問合せ〉 EBSCO Information Services Japan 株式会社

電話： 03-4540-7169 （代表） | Email： jp-ebscohost@ebSCO.com

医療動画配信サービス「Medical*Online Video」

－ 新シリーズの配信を開始！ －

加藤 賢太郎
株式会社メテオ 営業部

メディカルオンラインのユーザーの皆様にご好評をいただいております医療動画配信サービス「Medical*Online Video」において、2つの新シリーズの配信を開始しました。

1. 医学総合雑誌「日本臨牀」とのコラボレーションシリーズ(2026年2月リリース)

日本を代表する医学総合雑誌「日本臨牀」との共同企画による動画シリーズで、同誌の特集内容をもとに、専門知識を体系的に学習できる動画コンテンツを提供します。各領域において順次追加配信を行い、医療従事者および学生の継続的な学びを支援していきます。

2. 現役医師による実際の手術動画シリーズ(2026年5月リリース)

臨床現場の第一線で活躍する医師による実際の手術を撮影したシリーズで、手技や手順を確認することができ、医師・看護師など医療従事者の学習はもちろん、実践的な学びを求める医学部学生の学習ニーズに応える内容となっています。今後も様々な疾患の手術動画を順次、配信予定です。

弊社ブースでは Medical*Online Video のデモを行っていますので、ご興味のある方はぜひお立ち寄りください。



● Medical*Online Video について (2026年5月27日現在)

医療現場での知識や技術を正確かつ分かりやすく伝える信頼性の高い動画を830本以上配信。メディカルオンラインのフリーアクセスプランご契約の大学・病院・専門学校は無料でご利用可能。

図書館システム, 文献レビューアプリ, LMS のご紹介

ー日本事務器（株）教育機関向け ICT サービスのご紹介ー

池下 綾乃

日本事務器株式会社 事業戦略本部

日本事務器株式会社（以下 NJC）は、大学向け及び大学図書館向けの ICT サービスを提供しております。本大会でご紹介しておりますのは以下の3つのプロダクトとなります。

1.大学図書館情報システム「ネオシリウス・クラウド」

ネオシリウス・クラウドは、最新のクラウド技術による高い運用性と長年の経験・ノウハウに裏打ちされた大学図書館業務・サービスに適用した使いやすい機能が特徴です。運用を見据えた丁寧なヒアリングと導入提案により、何かと不安なシステム移行も十分にサポートいたします。

2.学習支援のための文献レビューアプリ「BOOK MARRY」

BOOK MARRY は、ご所属の学生・教職員のみが閲覧・投稿できる「クローズド」な文献レビュー共有サービスです。学生にとっては、自分の大学の先輩や同級生、教員のレビューのみ参照できるため、課題に有効な資料を探す際などに、信頼のおける情報源として活用できます。効率的な文献探しのための学習支援ツールとして、ぜひお役立てください。また、他の人のレビューを読むことで、「意識していなかったが実は興味がある」分野の発見や、魅力的な感想から本に手を伸ばす機会を生むといった、読書推進やキャリア支援の効果も期待できます。

3.看護教育を支える学習支援プラットフォーム「Pholly」

OSCE 試験・演習授業や臨地実習、卒業後の研修まで。

Pholly（フォリー）は、学びを分断させず、実践につなげるための看護教育を一貫して支援する学習支援プラットフォームです。

大学・専門学校の看護学部／学科をはじめ、認定看護師等の専門職教育課程や、学内外で研修・講座を実施する各種団体でも活用されています。

看護教育における「学び」と「運用」を両面からサポートします。

いずれの製品も弊社ブースにて実際にお試しいただくことが可能です。なお、それぞれ各サービスの詳細な内容については以下の HP をご参照下さい。

■「ネオシリウス・クラウド」「BOOK MARRY」

<https://www.njc.co.jp/neocilius/>

■「Pholly」

<https://www.njc.co.jp/pholly/>

特定非営利活動法人 ScholAgora

ー多様性を包摂した、公平で持続的な学術コミュニケーションを目標してー

永井裕子¹⁾, 尾城孝一¹⁾

¹⁾ 特定非営利活動法人 ScholAgora

ScholAgora は、学術コミュニケーションに関わる様々な立場の方々が協働し、その発展を目指すための非営利組織です。議論や対話、発表の場を提供し、現在の課題や認識についての共有をはかることを目的としています¹⁾。

ScholAgora の前身は UniBio Press といい、20 年に亘り、米国 BioOne と連携して国内生物系学会誌の出版を支援し、国内外大学図書館を中心に購読を進める活動を行ってきました。なお 2026 年からは BioOne の決断により、S2O モデルで出版事業を展開しています。この事業は現在も継続し、収入の柱となっていますが、ScholAgora への発展は、出版のみならずより広いステークホルダー、すなわち研究者・学協会・図書館・URA・関連企業等との協働を意味します。包摂的なコミュニケーションの場を重要と考え、個人を中心とした会員制となりました。学術コミュニケーションに関心がおありの方ならどなたでも、1 日約 10 円の費用で会員となり活動に参画することができます。

現在、主な活動として月 1 回程度の ScholAgora セミナーを展開しています。講演者の課題意識や取組を中心に、学術情報の質保証、様々な発信プラットフォーム、海外動向、学術コミュニケーションの歴史などを取り上げています。なお前身となる UniBio Press セミナー資料も ScholAgora のウェブサイトでご覧になれます²⁾。

また、会員による発信やワークショップの実施、ディスカッションを深める企画も検討中です。ScholAgora の事業及び活動、直近のセミナー等についてのご案内をブースにて差し上げております。学術コミュニケーションにかかる対話を始めるために、ぜひ足をお運びください。お目にかかれることを楽しみにしております。

¹⁾ ScholAgora とは何か, 特定非営利活動法人 ScholAgora ウェブサイト, <https://scholagora.smoosy.atlas.jp/ja/history> (accessed 2026-05-28).

²⁾ 過去のイベント(UniBio Press), 特定非営利活動法人 ScholAgora ウェブサイト, <https://scholagora.smoosy.atlas.jp/ja/event-unibiopress> (accessed 2026-05-28).

ワイリー パブリッシング ジャパン

医療分野 商品紹介

コクラン・ライブラリー、Advanced eText: Medicine コレクションのご紹介

長谷川 智史、濱野 聖子

ワイリー・パブリッシング・ジャパン（株）

コクラン・ライブラリー



* 無料体験も実施可能！

30 年以上にわたり、コクラン・ライブラリーは根拠に基づく医療における世界的なゴールドスタンダードであり続けています。130 カ国に 14 万人以上の協力者ネットワークを有するコクランは、複雑な医学研究を医療専門家・研究者・政策立案者にとって実践的な知見へと集約しています。

・9,200 以上のコクランレビュー、210 万件以上の臨床実験、2,300 以上のプロトコルを収載

・ポッドキャスト、平易な要約、論説などの関連コンテンツ

・3,500 以上の Clinical Answers は、実践的な臨床現場の医療従事者が利用しやすいよう簡潔にまとめられています。

Advanced eText: Medicine コレクション



40 以上の専門分野にわたる 80 タイトル以上を収録しており、学生・研究者・教授陣が医学分野の幅広い研究にアクセスできる多彩な書籍を提供しています。

これらのタイトルは Wiley Online Library で買い切り商品として近年発売されました。

・お客様のニーズや研究活動に沿った書籍が厳選され、治療計画や学習においてスタッフへの定着を図ります。

・研究者や臨床医が高度な専門書の深い知見を活用し、学術的な探求を推進できるよう支援します。

・病院スタッフ・教授陣・医療従事者が必要な資料に DRM フリーでアクセスできる環境を提供し、継続的な学習体験をサポートします。

各種商品の詳細やライセンスオプションは当社出展ブースまでお立ち寄りください！

医療系電子教科書

一次世代医療人材育成の取り組みー

平元海璃

株式会社紀伊國屋書店 デジタル情報営業部

1. 医療系電子教科書の概要

医師、看護師、コメディカルの育成を目的とした電子教科書プラットフォームです。医学教育での電子教科書導入が進んでいます。

2. 導入のメリット

- ・教科書の軽量化
- ・書き込み、検索、ブックマーク機能の利便性
- ・動画や辞典などの追加コンテンツの利用

3. 導入にあたっての検討事項

- ・端末購入サポート、Wi-Fi 環境、充電設備などの環境整備
- ・実習への端末持ち込み事前調整（例：解剖実習、患者のプライバシー配慮）

4. ご利用者の反応

- ・「学生が教科書を持ち帰るようになった」
- ・「端末で動画を見られるので、授業準備が楽になった」
- ・「複数の書籍を一括検索できるため、関連事項の調査効率が上がった」

紀伊國屋書店では、医学書院 e テキスト（医学書院）、医書.jp（医書ジェーピー社）、meebook（メヂカルフレンド社）、UniText（NTT EDX）、Kinoppy（紀伊國屋書店）など、複数の電子教科書プラットフォームを取り扱い、ご希望に合わせた総合提案を行っています。

ブースでは弊社代理店の海外学術図書各社の最新情報もご用意しております。



The
Bone & Joint
Journal



ANNUAL
REVIEWS

Rockefeller
University
Press

【お問い合わせ先】株式会社紀伊國屋書店 デジタル情報営業部

TEL: 03-6910-0518 Email: online@kinokuniya.co.jp

Ovid Discovery, ODS AI Summary

—あなたの Time Performance を劇的に改善：確かな情報源

MEDLINE/PubMed からの検索結果を、日本語でまとめて要約！—

発表者名 設楽真理子

所属機関名 Wolters Kluwer / Ovid

Medline/PubMed 検索結果の大意を、ごく短時間のうちに日本語で把握でき、医師・看護師・薬剤師・コメディカルの方々のタイムパフォーマンスを大幅に向上させることができます。AI の要約する関連性上位の 10 論文は、必要であれば出典にあたることもでき、比較表やグラフの形でまとめることもできます。原著を Ovid で購読されている場合には、文献そのものも日本語に要約できる機能も開発されています。

The screenshot displays the Ovid Discovery search results page for the query "mechanisms of insulin resistance in type 2 diabetes". The interface is in Japanese. On the left, there are filters for "関連度順で並べ替え" (Sort by relevance), "日で並べ替え" (Sort by date), and "フィルター" (Filter). The main content area shows a summary of the search results, including a list of articles and a summary of findings. The summary text discusses the mechanisms of insulin resistance in type 2 diabetes, mentioning factors like insulin resistance, hyperglycemia, and the role of the liver and muscle. It also mentions the importance of lifestyle changes and medical interventions.

約 700,000 件の検索結果

すべてのオリジナルを表示: AIアシスタント

研究概要

2型糖尿病におけるインスリン抵抗性 (insulin resistance) は、糖の組織のインスリン応答性が低下し、血糖値や脂質代謝の恒常性が維持できなくなる状態です。その主な機構として、インスリン受容体 (IR) シグナル伝達異常、肝臓・骨格筋・脂肪組織における異所性脂肪蓄積、慢性炎症、酸化ストレス、ミトコンドリア機能異常、腸内細菌叢変化、遺伝的・エピジェネティック要因などが複雑に関与しています^{[1][2][3][4][5][6][7][8][9][10]}。

細胞レベルでは、インスリン受容体のシグナルカスケードに関わるリン酸化障害、遺伝子発現異常、ベシクル輸送の異常などが認められます。加えて、血中脂質・遊離脂肪酸・アミノ酸の増加、エクソソーム由来microRNAなどの外因性因子も、インスリン作用の抑制に寄与しています^{[11][12]}。脂肪組織の機能不全は肝臓のインスリン抵抗性を悪化させ、肝臓における糖新生亢進・脂質異常につながります^[13]。

慢性的高血糖や過食は、インスリン分泌細胞の機能低下およびインクレチンホルモン抵抗性 (GLP-1 や GIP に対する反応性低下) にもつながり、さらに病態を悪化させます^{[14][15]}。現時点では単一で決定的な機構はなく、複数の要因が多面的に関与することが明らかとなっており、個別化医療・統合的治療アプローチが強調されています^{[16][17]}。

トップ検索結果に基づくAI生成の概要です。不適切な情報が含まれる場合があります。

2型糖尿病におけるインスリン抵抗性

Accili D, Dong Z, Liu Q. - Nature reviews. Endocrinology, 6-2025

インスリン抵抗性は、2型糖尿病の不可欠な病理生理的特徴です。インスリン抵抗性の確立されたおよび新たな細胞メカニズムをレビューします。

続きを読む

原文を見る

Metrics

Publication metrics

Article	Method	Journal SJR	Peer Reviewed	Publication Date	Cited By
[1]	Review	18.33	Yes	January 2024	
[2]	Experimental	1.33	Yes	April 2025	
[3]	Empirical Study	0.76	Yes	September 2024	
[4]	Empirical Study	1.31	Yes	December 2024	
[5]	Empirical Study	1.03	Yes	December 2024	
[6]	Review	0.76	Yes	March 2025	

Study metrics

Article	Sample size	Population	Duration	Outcomes
[2]	24	elder adults at risk of injurious falls	4 weeks intervention, 3 months follow-up	reduction in fall-related head impacts; reduced head acceleration; decreased hip acceleration
[3]	17 users (out of 118 eligible from 435 admitted)	Neurorehabilitation inpatients at risk of falling	Between 6th and 21st days of recovery, September 2022 to April 2023	Feasibility and acceptance of wearable belt; low device acceptance; 1 of 17 users fell
[4]	95	institutionalized older adults		Instrumented footwear gait data predicts fall risk better than traditional tests
[5]	134 intervention, 264 controls	older adults in 10 communities in PA and CA	six months	Significant reduction in major hip injuries, hospitalizations, and ED visits in intervention group

The right side of the screenshot shows a list of related articles with their titles and publication dates. The titles are in English and include topics like "The science of falls and how to prevent them", "Strategies to minimize fall-related injuries in older adults at risk of falls: the Falling Safety Training (FAST) study", "Snapshot of Fall Prevention in Patients Referred to a Neurorehabilitation Unit: A Feasibility Study on the Use of an Activity Device", "Fall Risk Prediction Using Instrumented Footwear in Institutionalized Older Adults", "REDUCING SERIOUS FALL INJURIES IN OLDER ADULTS: RESULTS OF A MULTICENTER WEARABLE TECHNOLOGY STUDY", and "A Decade of Progress in Wearable Sensors for Fall Detection (2015-2024): A Network-Based Visualization Review".

医学関連電子コンテンツのご紹介

兼田 順平

丸善雄松堂株式会社 企画開発統括部

【丸善のお勧めコアジャーナル】



世界的権威の Ann Intern Med、小児科関連の最高権威誌 Pediatrics、米国医師会が発行する JAMA 及びその姉妹紙をご紹介します。

【研究情報データベースのご紹介】



Digital Science 社が提供する研究分析データベース Dimensions、社会的インパクト分析ツール Altmetric Explore、研究データ管理プラットフォーム Figshare をご紹介します。

【APC 機関契約のご紹介 PLOS】



PLOS One をはじめ、生命科学、健康科学の分野でトップクラスの学術誌を刊行する OA 専門の出版社です。APC（論文掲載料）の負担を軽減する様々な契約モデルをご紹介します。

【医学系和書 Maruzen eBook Library】



提供可能点数約 17 万点以上、参加出版社数 420 社以上の国内最大級電子図書館プラットフォームです。医学・看護分野は約 5 万点収録。医中誌 Web とともに論文単位でリンク可能。PDF、EPUB リフローの他、医学系動画コンテンツやオーディオブックも充実しています。

【洋書 eBook 買切／購読プラットフォーム Kortext (コアテキスト)】



英国の主要大学の大半が導入し、全世界の 7,000 機関で 300 万人が利用。10,500 出版社の 220 万点以上におよぶ、医学・看護分野も含めた全分野をカバーする洋書専門書 eBook を提供。1 タイトルから購入可能。教科書から専門書まで幅広いラインナップ。

【医学洋書テキスト DB Access Medicine】



FIRST AID Forward



Boards&Beyond

Harrison 最新版(22 版)をはじめ基礎医学テキストブック約 150 点、様々な機能を搭載。USMLE 対策として First Aid の電子版、Boards & Beyond : 豊富な動画が特長。

【安価にアクセス可能なアグリゲーター系商品 Gale Academic OneFile】



全分野の外国雑誌を提供する汎用性の高いジャーナルデータベースです。医学分野のジャーナルも多数提供、総合大学だけでなく、医療系、看護系の大学にも導入されています。

参加企業連絡先

E-1	NPO 医学中央雑誌刊行会 データベース事業部 〒168-0072 東京都杉並区高井戸東 2-5-18 TEL:03-3334-7625 E-mail: info@jamas.or.jp
E-2	株式会社サンメディア アカデミックソリューション 〒164-0012 東京都中野区本町 3-10-3 PORT91 TEL:03-3299-1575 E-mail: e-port@sunmedia.co.jp
E-3	ユサコ株式会社 研究支援事業部 プロダクト部 〒106-0044 東京都港区東麻布 2-17-12 TEL:03-3505-6161(代) FAX:03-3505-6284 E-mail: product@usaco.co.jp
E-4	株式会社ブレインテック 営業窓口 〒141-0031 東京都品川区西五反田 8-3-16 西五反田 8 丁目ビル 7F TEL:050-3662-0555 FAX:03-4330-3656 E-mail: sales@braintech.co.jp
E-5	iJapan 株式会社 〒120-0035 東京都足立区千住中居町 17-20 マルアイビル 5F・21 TEL:03-4400-6977 E-mail: info@igroupjapan.com
E-6	EBSCO Information Services Japan 株式会社 営業担当 〒166-0002 東京都杉並区高円寺北 2-6-2 高円寺センタービル 3 階 TEL:03-4540-7169 E-mail: jp-ebshost@ebSCO.com
E-7	株式会社メテオ 営業部 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 4-1-6 クアトロ室町ビル 5 階 TEL : 03-5577-5877 E-mail: info@medicalonline.jp
E-8	日本事務器株式会社 事業戦略本部バーチャカルソリューション企画部 〒151-0071 東京都渋谷区本町 3-12-1 住友不動産西新宿ビル 6 号館 TEL: 050-3000-1508 FAX: 03-3372-1451 E-mail: jisui-bunkyo-gr@njc.co.jp
E-9	特定非営利活動法人 ScholAgora 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 8-11-10 星野ビル 3 階 E-mail: admin@scholagora.jp
E-10	Wiley Publishing Japan インスティテューショナル・セールス 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 8-4-2 野村不動産西新宿ビル 8 階 Email: inst-sales.japan@wiley.com
E-11	株式会社紀伊國屋書店 デジタル情報営業部 〒153-8504 東京都目黒区下目黒 3-7-10 TEL:03-6910-0518 E-mail: online@kinokuniya.co.jp
E-12	ウォルターズ・クルワー(Ovid) 〒108-0073 東京都港区三田 1-3-31 フォーキャスト三田ビル 5 階 TEL:03-5427-1950(代) Email: ovid-japan@wolterskluwer.com
E-13	丸善雄松堂株式会社 企画開発統括部 〒104-0033 東京都中央区新川 1-28-23 東京ダイヤビルディング 5 号館 10 階 TEL:03-6367-6114 FAX:03-6367-6188 E-mail: e-support@maruzen.co.jp

発表要領



口頭発表要領

【使用機器】

発表に際し、大会委員会が用意する使用機器は以下のとおりです。

プレゼンテーション資料は、以下の情報を参考にご用意ください。

下記以外に希望される機器等がございましたら事前にご相談ください。

(1) 発表用 PC

OS : Windows 11 Pro

プレゼンテーションソフトウェア : Microsoft PowerPoint

USB メモリ使用可能

(2) その他

プロジェクター、マイク、レーザーポインター

【事前準備】

- ・プレゼンテーション資料は 7 月 29 日（水）17:00 までに電子メールで送付してください。
- ・開会式までに大会実行委員が発表用 PC にコピーして、動作を確認します。
- ・配布資料がある場合は各自でご持参ください。

【発表当日】

- ・念のため USB でプレゼンテーション資料をご持参ください。USB は事前にウイルスチェックを行い、セキュリティロックを解除しておいてください。
- ・当日の差し替えをご希望の場合は、受付時に大会受付担当へお申し出ください。
- ・資料の配布は、配布物コーナーをご利用ください。

【発表に際して】

口頭発表は 3～4 題で 1 つのセッションを構成します。セッションがスムーズに運営されるよう、以下の手順をお守りください。

- ・発表者・モデレーター・タイムキーパーの皆様は顔合わせを実施しますので、セッション開始 10 分前に、会場前方に用意した席へお集まりください。
- ・発表時間は12 分間です。演題に立った時から計測を始めます。発表の準備、撤収は速やかをお願いいたします。
- ・発表時間の 3 分前にベルを 1 回、終了時間ちょうどにベルが 2 回鳴ります。2 回ベルが鳴った場合は速やかに発表をやめ、モデレーターに指示に従ってください。
- ・質疑応答は 3 分間です。質問者に直接答えるのではなく、モデレーターに指示に従ってください。また、質問には正確・端的にお答えください。

【終了後】

発表者が用意した配布資料等は各自お持ち帰りください。

ポスター発表要領

【会場について】

- ・ポスター発表会場は、ピアザ淡海 3 階大会議室横のホワイエです。
- ・ポスター用のパネル 1 枚を準備しています。
- ・ポスターのサイズはW1170mm/H1680mm 以内（推奨：A0 サイズ）をお願いします。
- ・掲示のための備品は実行委員で用意いたします。

【事前準備】

- ・当日の発表者は、事前に Peatix での参加者登録をお願いします。
- ・配布資料がある場合は各自でご持参ください。

【当日準備および待機時間】

- ・当日受付後、会場の指定した場所へ掲示してください。
- ・配布資料は、指定の場所へ並べるか、待機時間等にポスター前でお配りください。
- ・ポスター発表者は、実行委員会の指定する時間に、ポスター掲示場所で待機してください。

【終了後】

- ・8 月 1 日（土）17：30 までにポスター等を片付けてください。
- ・発表者が用意した配布資料等は各自お持ち帰りください。

企業展示要領

【大会概要】

日時：2026 年 8 月 1 日（土）9 時 30 分～17 時 00 分

場所：ピアザ淡海（滋賀県立県民交流センター） 3 階ホワイエ

【展示ブース】

9 時 30 分～10 時 30 分の間でご準備ください。

なお開催中は常時、展示ブースに担当者を配置するようお願いいたします。

各社の展示ブースの配置は、電源の位置を考慮した上でお申込み順に設定しております。

1 社あたりの展示ブースは横 180cm×奥行 160cm 程度となります。

◆ブースおよび貸与備品

長机（横 180cm×奥行 60cm）1 台、椅子 2 脚、パネル（縦 180cm×横 126cm）1 枚を貸与いたします。またブース内で電源供給を必要とされる場合は、後述のフォームにて 6 月 30 日（火）までにお知らせください。電源延長ケーブル 1 つを貸与いたします。その他、必要なものは各社様にてご用意ください。

会場内の Wi-Fi や LAN 設備はご利用いただけません。インターネットをご利用される場合は、各社様にてご用意ください。

【搬出入】

1. 搬出入は以下の時間帯をお願いいたします。

- ・ 搬入：8 月 1 日（土） 9 時 00 分～10 時 30 分
- ・ 搬出：8 月 1 日（土） 17 時 00 分～17 時 30 分

※展示用機材および資料の搬入出を車で行われる場合は、ピアザ淡海の地下駐車場または会場周辺の民間駐車場をご利用ください。駐車料金については、各社様でご負担ください。

2. 宅配便を使つての機材・ブース用資料等の事前搬入を希望される場合は、同じく後述のフォームにて 6 月 30 日（火）までにお申し出ください。

なお、MIS41 は貸会場での開催となるため、事前に会場に預けられる荷物に限りがございます。ご理解の上、事前搬入のお荷物は可能な限り少なくされ、なるべく当日ご持参いただくようご協力ください。

事前搬入の詳細（送付先・送付日）は後日お知らせいたします。

3. 大会終了後、宅配便を使用しての機材・資料搬出を希望される企業様は、8月1日（土）17時30分以降の集荷を予定しています。懇親会が開始している時間帯となりますのでお立会いは不要です。ご利用になる企業様におかれましては、下記のフォームにて6月30日（火）までにお申し出ください。なお、宅配便は着払い伝票にて処理させていただきますのでご了承ください。

【確認事項のフォーム入力】

①お弁当②懇親会③展示ブースでの電源供給④お荷物の送付について確認させていただきますので、全企業様6月30日（火）までに以下のフォームにてご回答ください。

MIS41 参加企業様 確認事項入力フォーム

【参加者向け資料】

参加者数は6月末にお知らせいたします（6月時点での申し込み状況となります）。

当日の資料配布は、各社ブースおよび配付物コーナーをご利用ください。

【その他】

1. 受付で名札をお渡ししますので、会場内では必ず着用してください。
2. 各出展の管理は出展者が責任を持つものとし、以下の諸注意を遵守いただくようお願いいたします。
 - ・ 他の企業・ブースに迷惑のかかるような行為はご遠慮ください。
 - ・ 会場での梱包材の廃棄等は出来かねます。各社様でお持ち帰りいただくようお願いいたします。
 - ・ ブースやプロダクトレビューでの商品案内において、第三者との権利が絡むものは、出展企業が第三者に事前に許諾を得るなどのご対応をお願いいたします。
 - ・ 会場でのコピーは出来かねますので、ご了承ください。
 - ・ 宅配便を使用した展示用機材や資料の送付および保管における故障や盗難について、大会実行委員会は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。
3. 暑い時期となりますので軽装でお越しください。

プロダクトレビュー要領

【大会概要】

日時：2026 年 8 月 1 日（土）9 時 45 分～17 時 00 分

場所：ピアザ淡海（滋賀県立県民交流センター） 3 階大会議室

【使用機器】

発表に際し、大会実行委員会がご用意する使用機器は以下のとおりです。

プレゼンテーション資料は、以下の情報を参考にご用意ください。

下記以外に希望される機器等がございましたら事前にご相談ください。

（1）発表用 PC

- ・ OS : Windows 11 Pro
- ・ プレゼンテーションソフトウェア : Microsoft PowerPoint（Office LTSC Professional plus 2024）

（2）その他

- ・ プロジェクター
- ・ マイク
- ・ レーザーポインター

【プレゼンテーション資料】

プレゼンテーション資料は、下記の期限までに事務局へご提出ください。

また当日の不測の事態に備え、データを USB メモリーに保存の上、当日ご持参ください。

提出期限：7 月 24 日（金）

提出先：MIS41 実行委員会 mis41_admin@googlegroups.com

【発表】

プロダクトレビューの順番はお申し込み順に設定しております。以下のとおりとなりますので、お間違いないように必ずご確認ください。

プロダクトレビューRA 12 時 00 分～12 時 25 分（ランチオン）

1. NPO 医学中央雑誌刊行会
2. 株式会社サンメディア
3. ユサコ株式会社

4. 株式会社ブレインテック
5. iJapan 株式会社

プロダクトレビューRB 12 時 35 分～13 時 00 分（ランチオン）

1. EBSCO Information Services Japan （株）
2. 日本事務器株式会社
3. 株式会社 紀伊國屋書店
4. ウォルターズ・クルワー(Ovid)
5. 丸善雄松堂株式会社

・プロダクトレビュー開始前の休憩時間中に、会場最前列にご用意したお席へお集まりください。

・発表時間は 5 分間です。終了時間となったところで、次の企業に交代していただきます。発表の準備、撤収は迅速にお願いいたします。

・質疑応答の時間はございません。企業展示コーナー等で受け付けるようお願いいたします。

・発表時間にすべての内容を盛り込むのではなく、展示会場へ足を運ぶきっかけとなるようなプレゼンテーションを実施していただけますと幸いです。

【その他】

- ・参加者数は 6 月末にお知らせします（6 月時点での申し込み状況となります）。
- ・資料の配付は、各社展示ブースの他、配付物コーナーをご利用ください。

Learning from each other!

医学情報サービス研究大会をより充実させるために

1. “Learning from each other!” に込められた思いとは

生命科学系の情報専門家として仕事をしていくためには、必要な知識とスキルを学びあうだけでなく、大きく変化する社会状況のなかで、専門職としての役割を再定義していく努力が求められる。医学情報サービス研究大会は、その努力の成果を試すひとつの場といえる。なぜなら医学情報サービス研究大会の特徴は、年齢、所属機関、性、地域、肩書きなどの違いをこえ、学びあうことに熱意を持ち、率直に交流し、問題解決の方法を求め、そして職業人としての向上を目指す人々が集う点にあるからである。つまり、医学情報サービス研究大会が掲げる “Learning from each other!” には、「参加者の所属機関・肩書きを意識しない」、「学びあう」、「自覚的に参加する」という思いが込められている。

医学情報サービス研究大会には、毎回参加する人、久しぶりに参加する人、初めて参加する人、発表する人、発表を聞きたい人等、様々な人がいるが、“Learning from each other!” に込められた思いを理解していただければ、たとえひとりで参加したとしても、医学情報サービス研究大会で有意義で心地よい時間を共有することができる。

2. 参加の目的

医学情報サービス研究大会とは、その名の通り、研究発表の場である。したがって医学情報サービス研究大会に参加する目的は、研究発表をすることであり、研究発表を聞くこととなる。

この参加目的を達成させ、より充実感を味わうために、発表者、聴衆、モデレーターに以下のことを提案したい。

3. 発表者

発表は自分の研究成果を問う場所である。ひとりでも多くの聴衆に自分の研究を理解してもらえるよう、発表の仕方を工夫しよう。

3.1. 発表に際して

(1) 発表の内容

- ・既発表の内容でも許容できるが、大会参加者に興味ある視点から発表しよう。
- ・持論を展開するだけでなく、データや文献等で裏付けを得て、より客観的な分析・考察をしよう。
- ・宣伝的な内容に終始しないようにしよう。

(2) 発表の形式

- ・医学情報サービス研究大会の発表では“口頭発表”と“ポスター発表”が設けられることが多い。それぞれにメリットがあり、向いている形式を選択する。

3.2. 口頭発表

(1) 研究の目的と結論を明確にしよう。

- ・研究の目的と結論を分かりやすく伝えるために、発表を組み立てよう。

(2) 研究の目的と結論に沿った説明をしよう。

- ・発表では、調べたことのすべてを説明する必要はない。研究目的と結論を理解してもらうため、必要なことのみを端的に説明しよう。
- ・問題の背景や先行研究を丁寧に説明すると、どうしても長くなりがちである。時間配分を考えて、勇気をもって割愛することも大切である。

(3) 発表時間を守ろう。

- ・発表時間は必ず発表要領で確認して、時間内に収まるように構成しよう。
- ・ベルが 1 回鳴ったら：まとめに入る。
- ・ベルが 2 回鳴ったら：いったん終了して、モデレーターの指示に従う。
- ・発表終了後に質疑応答。

<口頭発表のコツ>

準備

- ・発表要領で、用意されるパソコン環境とインターネットの有無を確認しておこう。
- ・スライドは、シンプルな画面構成を心がけよう。目的から結論に至るまで、分かりやすい文脈を考えよう。
- ・アニメーションはなくてもよい。使う場合は発表で効果的になるようにしよう。
- ・リハーサルをして、スライドを見て条件反射で説明ができるようになるろう。声を出すことも大事。同僚・家族などに聞いてもらおう。

発表

- ・緊張・不安は誰にでもある。少なくとも医学情報サービス研究大会では、怖れる必要はない。
- ・原稿を用意して、読み上げても構わない。
- ・発表姿勢がよいと、発表の印象もよくなる。
- ・時間内に 2、3 回会場を見渡して、聴衆の反応に目をやるとよい。

質疑応答

- ・質問にはシンプルに答えよう。分からないことを無理に答える必要はない。
- ・学術研究の世界では、クリティカル・シンキング（批判的思考）が一般的である。そのため、発表に対して批判的な質問をされることもある。それはあなた個人を批判しているのではないので、質問に対し真摯に回答しよう。
- ・質問を怖れない。感謝する気持ちで答えよう。

発表をより充実させるため

- ・発表内容を論文にしてみよう。
- ・発表は経験こそが上達の極意。ぜひ継続しよう。

3.3. ポスター発表

(1) ポスターで、発表内容を自由に表現しよう。

- ・発表で伝えたい、研究の目的と結論を明確にしよう。
- ・口演発表と同様に、すべてのことは伝えられない。研究の目的と結論を分かりやすく伝えるため、内容とデザインを検討しよう。

(2) 決められた大きさを守ろう。

- ・所定のパネル内に収まるように工夫しよう。

(3) 説明を明解・明確にしよう。

- ・文字を減らしてできるだけ図示して、短時間で理解してもらえる工夫をしよう。
- ・ポスターは“ぱっと見”の印象が大切。参加者に足をとめていただき、読んでもらえる構成を心がけよう。

<ポスター発表のコツ>

準備

- ・大判印刷ポスターでも、コピー用紙を複数枚貼る構成でも、どちらでも構わない。

- ・事前に完成させたポスターを持ち込むため、万が一に備えてバックアップを考えよう。（USB でデータを持参、Web mail にファイルを投稿等） 修正液・サインペン・色鉛筆等があると、軽微な修正ができる。
- ・発表に必要なパネルや画鋏は、実行委員会が用意する。指定された場所・時間内に、 所定の場所に掲出しよう。

発表

- ・“ポスター発表ダイジェスト”という、口頭発表の時間が設けられることがある。
- ・限られた短い時間では、すべてを説明することはできない。ポスターを見に来てもらう呼びかけに徹しよう。

質疑応答

- ・“発表者待機時間”が設定されていれば、決められた時間にポスター前に立つ。
- ・口頭発表と異なり、一対一で納得のいくまで話し合える利点がある。
- ・興味のある方だけが質疑応答に来るので、気負わず挨拶や声がけをしよう。できれば名刺交換も。質問を怖れず感謝する気持ちで、ポスターを見ながら納得いくまで議論しよう。
- ・同じ質問が繰り返される場合、根本的な問題か、単なる説明不足かもしれない。分からないことは、逆に質問してみよう。教わることは恥ずかしいことではない。

発表をより充実させるため

- ・発表内容を論文にしてみよう。
- ・ポスターで言いたかったことを、文章にして説明しよう。

4. 聴衆

質問は、発表に対する理解を深めるために行います。発表者、そして自分以外の聴衆にも分かりやすい質問を心がけよう。

(1) まずは名乗ろう。

- ・挙手して、モデレーターから指名されたら、所属先と氏名を名乗ろう。

(2) 質問は明確にしよう。

- ・質問かコメントかを最初に述べて、1 回にひとつだけにしよう。
- ・質問の前に持論を展開することはせず、聞きたいことを明確に述べよう。
- ・モデレーターの指示に従って質問しよう。

(3)興味を持ったら、質疑応答の時間以外にも、発表者に質問してみよう。

- ・休憩時間や懇親会なども、質問のチャンスとして活かそう。

5. モデレーター・タイムキーパー

モデレーターが発表者・質問者の発言を指揮することにより、発表のクオリティも変わる。発表者・質問者が独断に走らないよう、上手にコントロールしよう。

(1) セッションを把握しよう。

- ・大会抄録でセッションのテーマ、発表者名のヨミと所属、演題内容を確認しよう。
- ・セッション発表者が緊張しているか、問題を抱えているか、事前の打ち合わせを通して把握しておこう。

(2) 発表の時間を守ろう。

- ・セッションに設定された時間を把握しよう。
- ・タイムキーパーは、規定された時間どおりにベルを鳴らそう。ただし、規定時間内に発表が終了した場合は鳴らさない。
- ・時間内に終わらない場合は、モデレーターが一度制止して、対応を指示しよう。
- ・すぐ終わりそうなら、多少の延長を認める。
- ・終わりそうにないなら、いったん止めてもらい、継続・終了を指示する。

(3) 質問の交通整理をしよう。

- ・質問、回答はモデレーターの指示のもとで行うようにしよう。
- ・聴衆を無視しない（発表者と質問者で勝手に盛り上がらない）ようにしよう。
- ・質問者の発言が長い場合や内容の要領を得ない場合は、質問者に注意しよう。
- ・質問や回答が脱線しないよう制御して、分かりにくい場合は要約しよう。

(4) 質疑応答を活発にしよう。

- ・質問が出なかった場合、可能であれば、モデレーターから質問しよう。

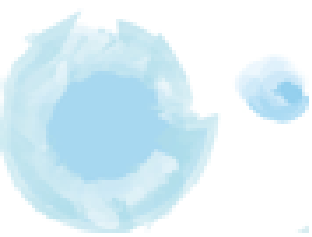
6. 参考文献

- ・黒木登志夫．知的文章とプレゼンテーション：日本語の場合、英語の場合（中公新書 2109）．東京：中央公論新社；2011.
- ・堀口安彦．発表が楽しくなる！ 研究者の劇的プレゼン術：見てくれスライド論&よってらっしゃいポスター論と聴衆の心をつかむ講演技術．東京：羊土社；2013.
- ・渡部欣忍．あなたのプレゼン誰も聞いてませんよ！：シンプルに伝える魔法のテクニク．東京：南江堂；2014.

- ・今泉美佳．ポスター発表はチャンスの宝庫！：一歩進んだ発表のための計画・準備から当日のプレゼンまで．東京：羊土社； 2003.
- ・宮野公樹．学生・研究者のための伝わる！学会ポスターのデザイン術：ポスター発表を成功に導くプレゼン手法．東京：化学同人；2011.
- ・Thomas A. Lang. 宮崎貴久子；中山健夫訳．トム・ラングの医学論文「執筆・出版・発表」実践ガイド．東京：シナジー； 2012.
- ・MIS31 名古屋大会実行委員会 “QOL” for MIS31 ～学びの質を高めるために～」[internet]．http://mis.umin.jp/31/pdf/MIS31QOL_20140224.pdf,
<http://www.slideshare.net/satomikojima750/mis31-qol-20140224-34934408>
[accessed 2022-06-04]

2023年4月

医学情報サービス研究会幹事会



実行委員紹介

実行委員長：八木澤 ちひろ（京都大学本部構内文系共通事務部）

実行委員のみなさんに最初にお伝えしたのは、「MIS は文化祭だと思ってください」ということでした。すべての参加者が日常からちょっと離れて、フラットな立場で、ゆるいコミュニティをつくりあげることができる。ここはそんな場所であってほしいと思います。また「無理しない」というのも今回の運営の裏テーマで、省略できるところは可能な限り省略していった……と思います。持続可能な MIS をめざした今回の文化祭、楽しんでいただけましたでしょうか？

事務局長：田村 峻一（滋賀医科大学附属図書館）

MIS41 の運営をしてきた中でよく考えたのは「これ毎年同じ場所で継続開催すれば引き継げるノウハウいっぱいあるのになあ！」ということでした（笑）しかし、そのコストを払う代わりに得られる貴重なベネフィット、イベントを一から手作りする事の良さがあるというのもいま強く実感しているところです。所属館種や立場を超えた人との新たな繋がりもたくさん生まれましたし、全国の皆さまに琵琶湖のほとりに集まっていたただけことは単純にうれしく思います。会場はゼロベースで検討しましたが、やはりここが良い！ということで第 28 回の京滋大会と同じピアザ淡海となりました。皆さまにとっても、滋賀まで来たからこそ意味があった！という大会になれば幸いに思います。

もちろん前札幌大会実行委員の皆さまや幹事会の皆さまには、引き継げるノウハウは引き継いでいただき、多大なご助力を賜りました。後続の大会にもできる限りの協力はさせていただこうと思います。この大会が末永く続くようお祈り申し上げます。

会計担当：石川 陽子（藍野大学中央図書館）

実行委員の打ち合わせで初めて会場のピアザ淡海を訪れた時、窓から見える琵琶湖の景色があまりにも美しかったのを覚えています。こんな素敵な景色が見える場所でみなさまと学びあい、共に楽しむことができる機会に恵まれ、大変うれしく思います。

また、実行委員をしなければお会いできないような方々と充実した時間を共有できて、私にとってかけがえのない財産となりました。この素晴らしい大会を通じて、みなさまに良い思い出を届けられるよう頑張りたいと思います。

抄録担当：大瀬戸 貴己（奈良県立医科大学附属図書館）

MIS28 京滋大会以来、15 年ぶり 2 度目の MIS 実行委員です。普段お世話になっている方からはじめましての方まで、皆様と一緒に「Learning from each other!」できることを楽しみに準備を進めてきました。初の 1 日開催ということで、例年もじゅうぶん濃い MIS が、よりぎゅうぎゅうのプログラムになって皆様をお迎えします。ぜひこの濃度を味わっていただければ幸いです。ちょっと疲れたときは、眼下に広がる琵琶湖を眺めてゆるりとなさってください。皆様にとって MIS41 がよき学びの場となりますように。

グッズ担当：金嶋 彩子（京都府立医科大学附属図書館）

昨年から京都府立医科大学勤務となり、今回、初参加の MIS に実行委員の末席として関わらせていただくこととなりました。今回の経験とヨコのつながりは、今後の大きな財産になると思います。グッズのデザインにあたっては実行委員の皆様に親身にアドバイスいただき、おしゃれな大会ロゴを活かした夏らしいTシャツが完成しました！当日は参加者の皆様と共に、自分もたくさん学びを得て帰りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

Peatix 担当：児玉 恭祐（滋賀医科大学附属図書館）

MIS41 滋賀大会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

私は今回が現地での MIS 初参加、そして初の実行委員という、嬉しい「ダブルでの実績解除(トロフィー獲得!）」となりました。

準備は大変なこともありましたが、実行委員として貴重な経験をさせていただき、この場を借りて感謝申し上げます。

滋賀県と言えば琵琶湖!今回の MIS も会場近くで皆様をデーン!とお迎えしております。ですが、滋賀県には琵琶湖以外にも魅力的なスポットがたくさんあります。今回はあまりお時間が取れないという方も、ぜひ次の機会に滋賀県の素晴らしさを体感しに戻ってきていただければと思います。

大らかな琵琶湖に見守られながら、皆さまにとって「よい（41）出会い、よい（41）学び」のある大会となるよう、精一杯サポートさせていただきます。

企業担当：竹村 佐知子（滋賀県立総合保健専門学校図書室）

第 41 回大会の開催にあたり、企業担当を務めております。開催に向けた準備にご協力いただいた企業の皆さまに、この場をお借りして御礼申し上げます。本大会が、職種や所属の垣根を越えて医学情報サービスに関わるすべての方々にとって、新たな気づきや学び、そしてつながりや交流が生まれる場となりますように。本日は限られた時間ではございますが、充実したひとときをお楽しみください。シールラリーも是非ご参加を！

Web サイト担当：谷 有紗（大津赤十字病院図書室）

世界から滋賀へ！ようこそおいでくださいました。

昨年、実行委員のお声がけをいただいたことが、私と MIS の最初の出会でした。

初参加ながら実行委員という大変貴重な機会をいただき、心より感謝申し上げます。

一からのサイト作成は学生時代の授業以来でしたが、とてもやりがいのある楽しい時間でした。

滋賀といえば、湖・島・山と夏を満喫できる環境が満載です。

酷暑が続きますが、大会とともに滋賀の魅力もぜひ楽しんでいってください！どうぞよろしく願いいたします！

広報担当：寺升 夕希（京都大学附属図書館）

猛暑ならぬ酷暑の中、MIS41 滋賀大会へようこそお越しくださいました！夏の陽射しにきらめく琵琶湖の景色とともに、皆さまをお迎えできることをとても嬉しく思っています。運営側として参加するのは MIS28 京滋大会以来です。MIS の良さは何といても、年齢・経験・職種や立場に関係なくフラットに学び合える点にあります。実行委員として、その素晴らしい時間を皆さまと分かち合えれば幸いです。

また、開催にあたり広報にご協力くださった関係者の皆さまへ、この場をお借りして御礼申し上げます。

弁当担当：藤村 三枝（滋賀医科大学附属図書館）

みなさん、こんにちは。お弁当&お菓子、楽しんでいただけましたでしょうか？今回、15 年ぶりに滋賀での開催となった MIS に、前回に続き参加させていただき、とてもうれしく思っています。実行委員といいながら、こんな好きなことしかしない担当でよいのかなとちょっと申し訳なく思っているのですが、せっかくなので楽しんでさせていただきます！

暑い中来てくださったみなさんに、少しでも滋賀のよいところを感じていただけたなら何よりの喜びです。

記録担当・懇親会サブ担当：三浦 寛二（愛荘町立愛知川図書館・秦荘図書館）

MIS41 滋賀へのご参加、ありがとうございました。私自身、今は公立図書館勤務ですが、初任の医学図書館勤務から離れて早 25 年が経ちました。医学図書館で学んだ経験や知識は、どの図書館でも応用できると実感しています。また、全国の医学図書館員が自己研鑽できる、MIS のような場があることはとてもすばらしいと思います。みなさまにとって、今回の MIS41 で得た知識や人脈を業務に活かすことができる、そんな場となれば幸いです。

懇親会担当：山下 ユミ（京都府立図書館）

酷暑の関西へようこそお越しくださいました。皆様をお迎えできることを大変嬉しく思います。

医学図書館から公共図書館へ移って 10 年になります。今回は公共図書館の立場から、皆さんと一緒に楽しく学んでいけたらと思っています。私自身の初参加は、先輩に誘われての一部参加でしたが、発表されている内容が全く理解できなかったことを思い出します。今回初めて参加される方も同じように感じるかもしれませんが、終わる頃には「楽しかった、次はもっと学んでみたい」と思っていただけのような大会にできればと思います。

また、今回は懇親会担当として、皆様が楽しく交流できるよう全力で盛り上げてまいります。会場は滋賀ですが、京都を拠点とする私としては、お帰りの際にぜひ京都へも足を延ばしていただければと存じます。大変厳しい暑さが続きますので、こまめに水分補給をしながら、充実した時間をお過ごしください。

サポーター代表：山田 久夫（関西医科大学名誉教授/日本医学図書館協会名誉顧問）

MIS41 によろこそ！八木澤ちひろ実行委員長のもと、充実した内容のプログラムになったのではないかと思います。有意義にお過ごしください。ところで皆さん！滋賀県についてご存知ですか？自然豊かな琵琶湖を擁する滋賀県は、古代より金勝族・木地師・穴太衆などの特殊技術集団が活躍した地です。また武家社会・忍者集団・近江商人・仏教やキリスト教の宗教人たちの育んできた文化をもち、国宝や重文の多い県です。宇治茶の源流となる茶葉や茶器（信楽焼）の産地でもあり、たねや（クラブハリエ）のような体験型のお店もあります。米・メロン・ぶどう・近江牛・湖魚・赤こんにゃくや湯葉を使った精進料理、お酒といったグルメも楽しめます。「成瀬あかり」のように、淡海（近江）をぜひ堪能してください。

ロゴマーク・グッズ紹介



滋賀といえば日本一広い湖、琵琶湖を想像されることでしょう。さらに、今大会の会場のほど近くには、遊覧船ミシガンが発着する大津港がある、ということから、今回のロゴマークは、「琵琶湖の波と船」をモチーフに制作しました。

さわやかな真夏の湖の色をイメージした、緑がかった青をベースカラーに設定しております。こちらのロゴマークとともに、会場から一望できる琵琶湖の景色をぜひお楽しみください！（八木澤）

前回大会に引き続き、今大会も販売用グッズは T シャツのみとなりました。琵琶湖をイメージしたおしゃれな大会ロゴに合わせ、ライトブルーの生地白いロゴが映えるさわやかなカラーリングです。シンプルながら存在感のあるバックプリントになっています。

なお、販売用グッズ以外にも、当日開催するシールラリーをコンプリートされた方への景品として、大会ロゴをあしらったステッカーとマグネットをご用意しました。どちらも数量限定となっておりますので、奮ってご参加ください！（金嶋）



有志企画

MIS41 滋賀の翌日、2026 年 8 月 2 日(日)に、実行委員有志＋参加者有志による以下の企画を予定しております。ご参加を希望される方は、Peatix で申込をされたご連絡先に、有志企画のお申込みについて案内を差し上げておりますので、そちらをご参照ください。

【企画概要】

午前の部： 1)ミシガンクルーズ または 2)滋賀医科大学附属図書館見学ツアー

午後の部： 2)滋賀医科大学附属図書館見学ツアー

※片方のみ、あるいは両方の参加も歓迎です。

※滋賀医科大学附属図書館見学ツアーは、午前の部、午後の部ともに同じ内容です。

※参加費は実費負担となります。

※お申込みは 7 月 25 日（土）まで。

企画 1) ミシガンクルーズ

琵琶湖クルーズ船ミシガンに乗船する企画です。

参加費（乗船料）：大人 1 人 2,800 円 ※15 名以上の参加で大人 1 人 2,520 円

- ・乗船時刻：09:40～10:40（ミシガン 60・大津港発着）

企画 2) 滋賀医科大学附属図書館見学ツアー

滋賀医科大学附属図書館を見学する企画です。また、滋賀医科大学メディカルミュージアムも同時に見学します。

参加費：無料

- ・午前の部：10:00～11:00
- ・午後の部：13:30～14:30

大会関連データ



医学情報サービス研究大会の組織と運営

1984年に、東京都養育院講堂で第1回図書館情報サービス研究大会を開催しました。この大会は、病院図書室研究会、ライフ・サイエンス図書館員研究会、日本端末研究会、生物医学図書館員研究会の4団体による合同研究大会として出発し、第3回札幌大会からは、独立した研究会として運営されるようになりました。第10回大会から、大会名称を医学情報サービス研究大会に変更し、医学、薬学、歯学、看護学、保健などの生命科学関連領域の情報サービスを中心に、専門性をより深く追求してまいりました。

2020年はコロナ禍により第37回大会を開催延期とし、2021年はオンラインで「MIS2021講演会」を開催しました。2022年は延期した第37回大会を岩手からオンラインで開催、2023年は第38回大会をハイブリッド（対面とオンライン）で開催しました。これほどまでも長く続けてこられたのは、会員制度をとらず、参加される一人一人の方々の自覚と意欲によって形成されている点にあります。参加者は、所属機関を越えて自覚的に個人として集まります。会場では、それぞれが時には講師、時には受講者となって学び合います。『Learning from each other!』精神のもと、参加者も自然と運営に関わる手作りの研究大会であることが、継続してきた最大の理由と思われます。

医学情報サービス研究大会の基本運営は幹事会で検討されていますが、実際の大会運営は、各回の実行委員会に委ねられております。実行委員会は毎回リセットされるため、大会プログラムもその回ごとに異なります。その結果、研究大会そのものが、常によりフレッシュされていることも、特徴のひとつといえます。

インターネットを介した情報技術の進歩により、社会は大きく変化しました。生命科学関連領域の教育・研究・臨床もその影響を受け様変わりしています。そのため情報サービスを提供する我々自身も、新しい知識や技術を取得・吸収しなければなりません。本研究大会は、その手助けができる場所として、今後とも発展させていくつもりです。

■医学情報サービス研究会幹事会

代表幹事

児玉 閑 （鶴見大学文学部ドキュメンテーション学科）

幹事会メンバー

阿部 信一 （東京慈恵会医科大学学術情報センター）

及川 はるみ （聖路加国際大学学術情報センター図書館）

大谷 裕 （東邦大学医学メディアセンター）

小野 理奈 （東京科学大学情報部図書館利用支援課）

城山 泰彦 （順天堂大学本郷・お茶の水キャンパス学術メディアセンター）

諏訪 有香 （高知学園大学高知学園短期大学図書館）

眞喜志 まり （慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室 HTA公的分析研究室）

谷澤 滋生 （特定非営利活動法人日本医学図書館協会中央事務局）

歴代代表幹事・大会長 [所属表記は代表幹事退任時]

後藤 久夫 (東京都福祉局福祉部)

井出 唯敬 (兵庫医科大学)

山崎 茂明 (愛知淑徳大学文学部図書館情報学科)

青木 仕 (順天堂大学図書館)

ご意見やご要望などございましたら、私たち幹事会メンバーまでお知らせください。

医学情報サービス研究会会則

(名称)

第1条 本会は、医学情報サービス研究会という。

(目的)

第2条 本会は、個人単位の自由な集まりを原則とし、参加者自身の研究発表による知識の共有と交流の場を提供することによって、各自の資質向上を図り、もって情報サービスの発展に貢献することを目的とする。

(活動)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる活動を行う。

- ① 年1回「医学情報サービス研究大会」を開催する。
- ② その他必要と認められる活動を行う。

(会員)

第4条 本会は、特に会員制度を有しない。

(代表、会計及び幹事)

第5条 本会に代表一人、会計一人及び幹事若干人を置く。

- 2 代表、会計及び幹事の任期は1年とし、再任は妨げない。

(定例会)

第6条 代表は、毎年1回定例幹事会を招集する。

- 2 定例幹事会は幹事の5分の4の出席をもって成立する。
- 3 定例幹事会では、本会の運営に関する重要事項を協議する。

(研究大会)

第7条 年1回「医学情報サービス研究大会」を開催する。

- 2 開催地及び大会実行委員長は定例幹事会において決定する。
- 3 研究大会開催の経費の一部は、研究会より交付し、その他は参加費で賄うものとする。
- 4 その他については、別に定める。

(経費)

第8条 本会の経費は「医学情報サービス研究大会」の参加費、及び出版物等の販売の益によって賄うものとする。

(事務)

第9条 本会の事務は、代表または幹事の属する図書館（室）において処理する。

2 本会の事務局は、東京都文京区本郷2-1-1 順天堂大学 学術メディアセンターに置く。

(雑則)

第10条 この会則に定めるもののほか、本会に関し重要な事項は別に定める。

付則

この会則は、平成2年6月16日から施行する。

この会則は、一部改正の上、平成4年12月1日から施行する。

この会則は、一部改正の上、令和5年8月1日から施行する。

医学情報サービス研究大会の足跡（1）

■ 図書館情報サービス研究大会（第1回～第9回）

回	開催年月日	開催地（当時）	会場施設	参加者	企業	実行委員長	事務局長	天気（2日分）	
1	1984年6月2日～3日	東京都板橋区	東京都養育院 講堂	165 名	—	後藤久夫	山崎茂明	晴	曇
2	1985年6月1日～2日	大阪府枚方市	大阪歯科大学 5階講義室	130 名	—	井出唯敬	木下順一	曇	曇
3	1986年6月28日～29日	北海道札幌市中央区	札幌医科大学 臨床教育研究棟大講堂	126 名	—	野口迪子	中山純一	晴	曇
4	1987年6月6日～7日	岡山県倉敷市	川崎医科大学 現代医学教育博物館	141 名	—	湊泰子	河口澄子	晴	晴
5	1988年6月25日～26日	東京都板橋区	東京都養育院 講堂	184 名	—	後藤久夫	奈良岡功	雨	雨
6	1989年6月10日～11日	大阪府大阪市中央区	大阪市立労働会館 小ホール	125 名	—	殿崎正明	安藤孝幸	曇一時雨	曇一時雨後晴
7	1990年6月16日～17日	静岡県浜松市	クエート浜松 ホール	142 名	6 社	熊谷健治	山口直比古	曇時々雨	晴
8	1991年6月22日～23日	鳥取県米子市	鳥取大学医学部 記念講堂	100 名	5 社	宍道勉	青木仕	薄曇	曇一時雨
9	1992年5月30日～31日	京都府京都市山科区	京都市東部文化会館	209 名	6 社	岩本博（兼任）		雨後曇	晴時々曇

■ 医学情報サービス研究大会（第10回以降）

回	開催年月日	開催地（当時）	会場施設	参加者	企業	実行委員長	事務局長	天気（2日分）	
10	1993年6月19日～20日	東京都文京区	順天堂大学 有山記念館3階講堂	203 名	—	奈良岡功	青木仕	雨一時曇	曇一時雨
11	1994年6月18日～19日	岩手県盛岡市	岩手医科大学 医学部臨床講堂および図書館	142 名	3 社	藤原紀子	金野早苗	晴後一時薄曇	曇
12	1995年7月1日～2日	長崎県長崎市	長崎大学医学部 第1講義室	95 名	6 社	喜多芳明（兼任）		曇一時晴	雨、雷を伴う
13	1996年6月29日～30日	愛知県名古屋市中種区	愛知県がんセンター 国際医学交流センター	206 名	6 社	熊谷健治	安田多香子	晴一時曇	曇一時雨後晴
14	1997年6月21日～22日	東京都文京区	東京医科歯科大学 5号館講堂	240 名	10 社	安藤越代	石井保志	晴後曇	曇一時雨
15	1998年6月20日～21日	鳥取県倉吉市	鳥取女子短期大学 A館3階309教室	104 名	5 社	上田京子	野原千鶴	曇後晴	雨一時曇
16	1999年6月26日～27日	神奈川県横浜市鶴見区	鶴見大学会館 メインホール	259 名	10 社	登坂善四郎（兼任）		雨後曇	雨一時曇

医学情報サービス研究大会の足跡 (2)

回	開催年月日	開催地 (当時)	会場施設	参加者	企業	実行委員長	事務局長	天気 (2 日分)	
17	2000年7月22日～23日	北海道札幌市中央区	札幌医科大学 臨床教育研究棟大講堂	159 名	10 社	平紀子	中山純一	曇後時々雨	雨一時雲
18	2001年6月23日～24日	愛媛県伊予郡砥部町	愛媛県立医療技術短期大学 教育棟北棟	160 名	9 社	野原千鶴	吉見八重	雨	雲後晴
19	2002年7月6日～7日	静岡県静岡市	静岡県立大学短期大学部 大講義室	250 名	14 社	田引淳子	小浜進	雲一時晴	雲一時雨
20	2003年7月12日～13日	京都府京都市上京区	京都府立医科大学 附属図書館・合同講義棟	270 名	16 社	宮本小夜子	山室真知子	雨後雲	雨
21	2004年7月3日～4日	東京都渋谷区	国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟セミナーホール	355 名	18 社	児玉閑	城山泰彦	晴	快晴
22	2005年7月9日～10日	愛知県愛知郡長久手町	愛知医科大学 本館たちばなホール	266 名	18 社	坪内政義	市川美智子	雨一時雲	雲
23	2006年7月15日～16日	千葉県千葉市稲毛区	千葉大学 けやき会館大ホール	322 名	18 社	谷澤滋生	加藤晃一	晴時々雲	雲一時雨
24	2007年8月25日～26日	長崎県長崎市	活水女子大学 4号館411教室	170 名	13 社	喜多芳明	森茂樹	雨後雲	晴時々雲
25	2008年7月12日～13日	茨城県つくば市	筑波大学 春日キャンパス講堂	278 名	18 社	小野寺夏生	岩澤まり子	晴	晴
26	2009年7月4日～5日	東京都港区	北里大学 白金キャンパス薬学部1号館1501講義室	305 名	18 社	宇野彰男	阿部京子	曇後一時晴	曇
27	2010年8月21日～22日	福島県いわき市	いわき明星大学 AV大講義室	161 名	16 社	佐々木克彦	石井美樹	晴	晴
28	2011年7月23日～24日	滋賀県大津市	滋賀県民交流センター ビアザ淡海 大会議室	229 名	18 社	櫻井待子	菅修一	晴	薄雲
29	2012年8月25日～26日	東京都中央区	聖路加看護大学 アリス・C・セントジョンメモリアルホール	333 名	17 社	松本直子	及川はるみ・佐藤晋巨	晴	晴後一時雲
30	2013年7月6日～7日	沖縄県那覇市	沖縄県立看護大学 大講義室	144 名	13 社	大山努	古謝久美子	薄雲後晴	晴
31	2014年7月26日～27日	愛知県名古屋市中種区	愛知県がんセンター中央病院 国際医学交流センター	249 名	15 社	小嶋智美	市川美智子	晴一時雲	晴時々雲一時雨
32	2015年7月18日～19日	北海道札幌市北区	北海道大学 学術交流会館	189 名	19 社	松尾博朋	武田理香子	雨時々雲	雲一時雨
33	2016年7月2日～3日	長崎県長崎市	長崎市立図書館 多目的ホール	149 名	15 社	喜多芳明	下田富美子	曇時々雨	雲後時々雨
34	2017年8月26日～27日	大阪府枚方市	関西医科大学 枚方キャンパス 加多乃講堂	167 名	15 社	山田久夫	増田徹	曇一時雨	薄曇時々晴
35	2018年8月4日～5日	東京都渋谷区	国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟セミナーホール	300 名	18 社	大谷裕	阿部潤也	晴一時薄曇	晴
36	2019年8月11日～12日	福岡県福岡市東区	九州大学医学部 百年講堂	156 名	18 社	首東誠	福島真紀	薄曇時々晴	晴一時薄曇

医学情報サービス研究大会の足跡 (3)

回	開催年月日	開催地（当時）	会場施設	参加者	企業	実行委員長	事務局長	天気（2日分）
－	2021年12月4日	MIS2021 講演会（オンライン開催：幹事会、MIS37 岩手実行委員会）		189 名	－	児玉 閑（大会責任者）		東京：快晴／盛岡：曇後みぞれ時々雪一時雨
37	2022年7月16日～17日	岩手県紫波郡矢巾町	岩手医科大学（オンライン開催）	183 名	11 社	川崎かおる	關山悦子	雨時々曇 雨時々曇、雷を伴う
38	2023年7月1日～2日	高知県高知市	オーテピア高知図書館（ハイブリッド開催）	268 名	14 社	諏訪有香	依光朋子	大雨後時々曇 晴後一時曇
39	2024年7月13日～14日	愛知県名古屋市瑞穂区	名古屋市立大学桜山キャンパス	167 名	16 社	小嶋智美（兼任）		晴後曇一時雨 曇時々雨、雷を伴う
40	2025年8月23日～24日	北海道札幌市中央区	札幌医科大学 札幌医科大学記念ホール	97 名	12 社	平紀子	武田理香子	雨時々曇後晴 晴
41	2026年8月1日	滋賀県大津市	滋賀県民交流センター ヒアザ淡海			八木澤ひろ	田村峻一	
42	2027年							

※ 参加者数は、実行委員会の公式発表数。公式発表数を確認できない回は、参加者名簿等により推計（斜字体表記）。

天気は、気象庁「過去の気象データ検索」より、開催地都道府県気象台の天気概況（昼06:00～18:00）を記載。

大会主催のお願い

現在、大会を実行される主催者を募集しています。医学情報サービス研究大会は、1984年に東京都養育院講堂で開催された第1回大会以来、研究発表、生涯教育、情報交換の広場として、発展してきました。これは、大会会場の提供と実行委員会のご尽力によるものです。大会の場が存在してこそ、私たちは、ともに学びあい、率直に交流し、問題解決の方法を求め、心地よい時間を共有してこられました。大会を開催するには多大なエネルギーが必要です。しかし、実行委員会を組織して、プログラムを企画し、大会を実行することで参加者とは異なる楽しさ・達成感・充実感が得られます。みんなで作る当大会の継続と発展のために、大会主催者としての関与をご検討ください。

大会参加者は300名を超える回もありましたが、新型コロナウイルス感染症による中断が明けて以降は100～150名で推移しております。参加者が少しリセットされた感がありますが、大会の組織や実行のために必要なノウハウや人材、活動資金などは、これまでの蓄積がありますので、主催のために支援が必要な場合は、幹事会メンバーや多くの仲間が協力できます。また従来の形式にとらわれず、準備の合理化や、省力化の試みを進めております。プログラムについては、特別講演や継続教育コース、特定テーマのシンポジウムなど、実行委員会の裁量で企画いただけます。一般演題はポスター発表を含め、新しい人々の申し込みを得ています。情報サービスの専門職として、企業とのパートナーシップも形成しています。新しい製品やシステムの紹介は、展示ブースだけでなく、プロダクトレビューの場で口演されています。これにより、一般演題やポスター演題は、研究発表や事例提示を中心にして、マーケティングのための商業発表と区別されることになります。

大会運営のための経費は、主に参加者の大会参加費に依存しています。企業からの展示収入も寄与していますが、主催者側と企業との適正な関係の育成に努めています。懇親会や大会グッズなどは、学びあうだけでなく、楽しめるプログラムとして位置づけています。

これまでの大会運営にあたり、財政支援のともなう他組織からの後援を受けていません。私たちは手作りであることを大切にしており、今後とも自由な個人の力を組織した大会として継続させたいと願っています。

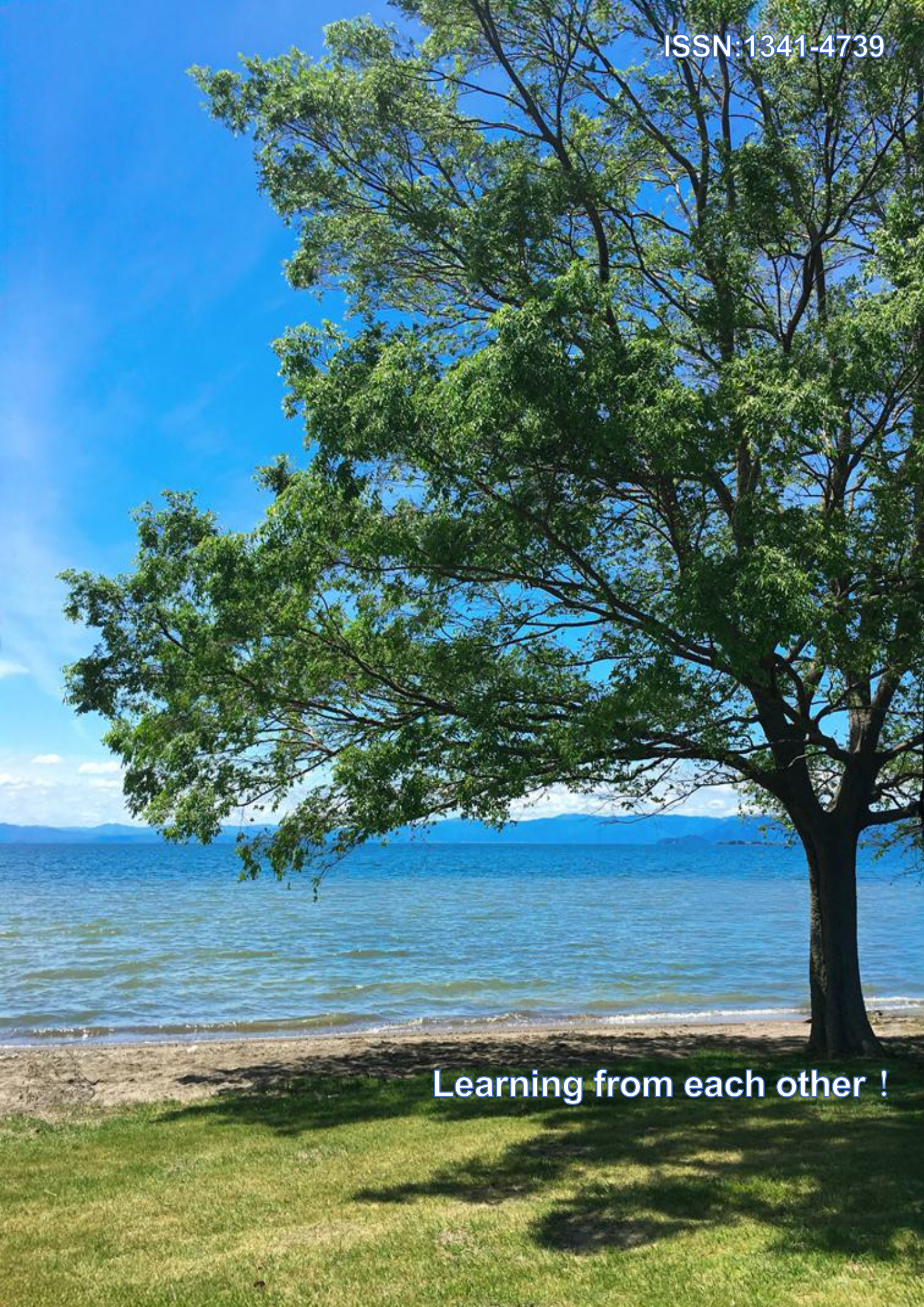
“Learning from each other!”。大会開催についてご相談がございましたら、ぜひ幹事会メンバーへお知らせください。

*これまで開催された大会のプログラム、記念写真、開催報告一覧を、医学情報サービス研究大会ウェブサイト (<https://plaza.umin.ac.jp/mis/>) でご覧いただけます。
ぜひ一度お越しください。

第 41 回医学情報サービス研究大会抄録集

発行日 2026 年 8 月 1 日
発行者 八木澤 ちひろ
編集 第 41 回医学情報サービス研究大会実行委員会
写真提供 寺升 夕希

ISSN:1341-4739



Learning from each other !